

熊本大学医学部
における組織評価
自己評価書

平成 30 年 9 月 30 日
5. 医学部

目次

I 熊本大学医学部の現況及び特徴	2
II 教育の領域に関する自己評価	5
1. 教育の目的と特徴	6
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	12
3. 観点ごとの分析及び判定	13
4. 質の向上度の分析及び判定	32
III 社会貢献の領域に関する自己評価書	33
1. 社会貢献の目的と特徴	34
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	36
3. 観点ごとの分析及び判定	37
4. 質の向上度の分析及び判定	46
IV 国際化の領域に関する自己評価書	48
1. 国際化の目的と特徴	49
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	49
3. 観点ごとの分析及び判定	50
4. 質の向上度の分析及び判定	57
VI 管理運営に関する自己評価書	58
1. 管理運営の目的と特徴	59
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	59
3. 観点ごとの分析及び判定	59
4. 質の向上度の分析及び判定	77

I 熊本大学医学部の現況及び特徴

1 現況

- (1) 学部等名：熊本大学医学部
- (2) 学生数及び教員数（平成 30 年 5 月 1 日現在）
学生数 1,341 人（医学科 730 人、保健学科 611 人）
専任教員数（現員数）：307 人（医学科 259 人、保健学科 48 人）

2 特徴

医学部は、学士（医学）教育課程である 6 年制の医学科と、看護学、放射線技術科学及び検査技術科学の 3 専攻を持つ学士（看護学・保健学）教育課程である 4 年制の保健学科の 2 学科で構成される。

医学科は、宝暦 6 年（1756 年）に設立された肥後医育機関「再春館」に始まり、昭和 24 年の国立学校設置法に基づき熊本大学医学部医学科となり、平成 16 年に国立大学法人熊本大学医学部医学科となった。保健学科は、明治 31 年（1898 年）に設立された熊本医学校看護学講習科に始まり、昭和 51 年に熊本大学医療技術短期大学部となり、平成 15 年 10 月に医学部に統合され、医学部保健学科となった。

近年の医療の高度化・専門化により、医療人には高度な専門的知識や技術の修得とともに、豊かな人間性、高い倫理観、生命の尊厳への認識が求められている。

医学科は、長い歴史と伝統を有し、日本全国のみならず世界各地において医学医療の発展向上に寄与している。また、卒業後に医師となる医学士を養成する医学教育組織であるため、より強い倫理観に基づき、自浄能力を堅持した相互批判精神に裏打ちされた活力を持った組織である。教育実践を行う教員はヒト（人間）に対するあらゆる分野の生命科学研究を行う研究者であることが前提であり、担当する教育科目に関する最高水準の研究を行うことによって、絶えず教育者としての資質向上を目指している。医学生が誇りと自信を持って学び成長する組織であるとともに、医学生を支える教員と教務担当職員が一丸となって活動している。

従来の講座がイコール学科目担当講座という制度から脱皮し、履修すべき教科目を基にして、複数の分野が担当可能な制度を採用したので、教育内容・カリキュラム等を柔軟に改訂・改善できると共に、一つの学科目に対して様々な視点から教授できるようになっている。また、最新の研究内容の紹介や診療スタイルにより近い実践的臨床教育を含む幅広いカリキュラムを特徴とし、誠実で人間的バランスのとれた医師を育てる教育を実践している。

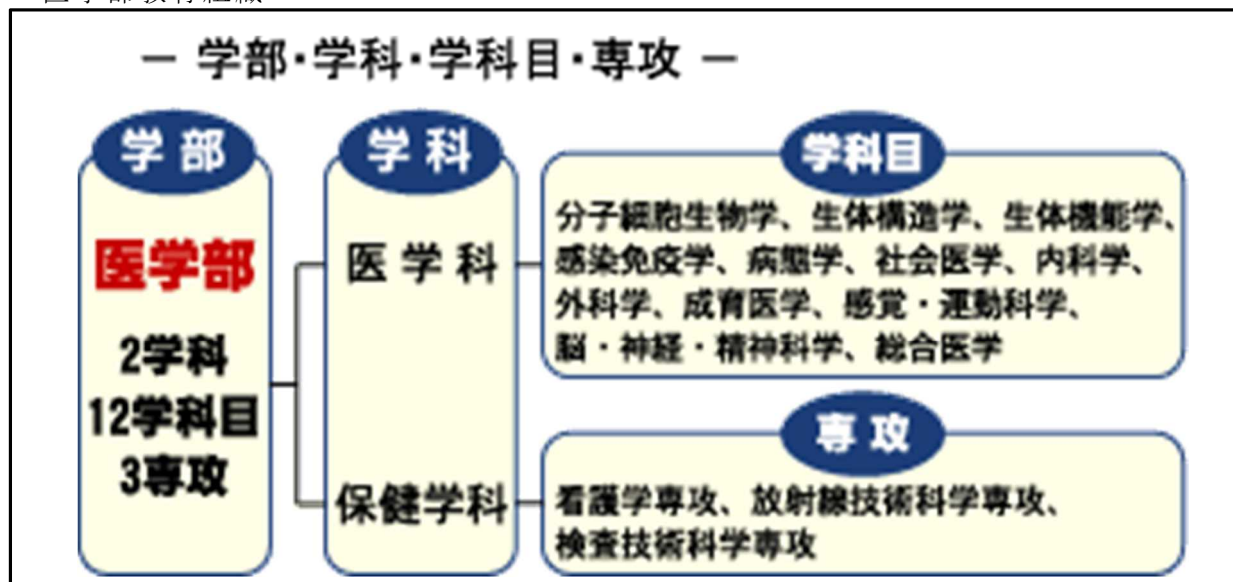
保健学科は、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の教育・研究を通し、保健・医療・福祉分野の発展に寄与している。保健学の基礎を教授する教育機関として、学生に幅広い教養と社会的視野、自ら問題を見出し解決していく能力や自立的で主体的な判断力、国際化社会に対応して諸外国との情報交換や学術交流の推進に貢献できる能力、さらには医療を通じて国際貢献できる能力を身に付けさせる教育を実践している。また、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の 3 専攻を持つ強みを活かし、高度なチーム医療を推進できる医療人の育成にも取り組んでいる。

一方、医学部を担当する教員は、平成 22 年に大学院医学薬学研究部から発展的に改組された大学院生命科学研究部に所属し、共同研究等を通して医学系・薬学系・保健学系教員の連携を強めている。また、教育面においては附属病院がある強みを活かし、附属病院

職員との連携により教育研究を効果的に実施することができる。医学部を担当する教員は、学生の人材養成に加え、これら生命系との連携により専門性をより深め、その専門的な知識は学会等を通して各学問分野の発展に資するとともに、講演会等を通して一般社会へ専門知識を還元している。（資料1）

（資料1）

・医学部教育組織



（出典：医学部 Web サイト）

3 組織の目的

医療・保健を取り巻く社会情勢が急激な変化を遂げる中、医学部は、研究を通して得られた専門的知識を社会に還元するとともに、将来、医師・医療技術者として、専門分野の発展に寄与することができる人材の育成を目的としている。

人材の育成に関して、学則第1章総則、第1節目的第1条には、「教育基本法及び学校教育法の精神に則り、総合大学として知の創造、継承及び発展に努め、知的、道徳的及び応用的能力を備えた人材を育成することにより、地域と国際社会に貢献するもことを目的とする」と詠っている。

医学科は、「豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を追求、達成しうる医師・医学者を育てる」を使命と定めており、医学科組織の目的は、この使命を達成することである。具体的には、アドミッションポリシーとして、1. 病める人たちやその家族の気持ちを理解できる人、2. チーム医療の中心的役割を果たすための優れた協調性を持つ人、3. 地域医療に関心を持ち、地域住民の健康増進に貢献する意欲を持つ人、4. 科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人、5. 社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保険医療や福祉に深い関心をもつ人、6. 日々進歩する医学や医療の最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学習を継続できる人を医学生として求めている。さらに、卒業する際に獲得しているべき能力をコアとなる7項目とそれぞれの下位に属する総計50の小項目からなる教育成果として明文化し、カリキュラムポリシーとして、卒業時には全ての教育成果を獲得できているようにカリキュラムを編成し、獲得した者に学士（医学）を授与することをディプロマポリシーとして明記している。（資料A-1-1-1）

保健学科は、医療生命倫理を含めた豊かな教養、ならびに医療を取り巻く環境の変化に対応しうる高度な専門的知識・技術を備え、医療チームの一員として、疾病の予防、地域住民の健康の保持・増進、さらには生活の質向上に広く貢献できる医療者・研究者・教育者を育成することを目的としている。

Ⅱ 教育の領域に関する自己評価

1. 教育の目的と特徴

医学科では、「豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を追求、達成しうる医師・医学者を育てる」ことを熊本大学医学部医学科の使命としている。

具体的には、アドミッションポリシーとして、1. 病める人たちやその家族の気持ちを理解できる人、2. チーム医療の中心的役割を果たすための優れた協調性を持つ人、3. 地域医療に関心を持ち、地域住民の健康増進に貢献する意欲を持つ人、4. 科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人、5. 社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保険医療や福祉に深い関心をもつ人、6. 日々進歩する医学や医療の最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学習を継続できる人を医学生として求めている。さらに、卒業する際に獲得しているべき能力をコアとなる7項目とそれぞれの下位に属する総計 50 の小項目からなる教育成果として明文化し、カリキュラムポリシーとして、卒業時には全ての教育成果を獲得できているようにカリキュラムを編成し、獲得した者に学士（医学）を授与することをディプロマポリシーとして明記している。（資料 A-1-1-1）さらに、教育成果（資料 A-1-1-2）を獲得するため、医学科の講義・実習がどのような役割を果たしているかを明示した「教育成果と講義・実習との対応表」を作成し、教員、学生双方が、各講義および実習が、教育成果のどの項目に該当するかを把握できるようにしている。

医学科の特徴は、将来国内外の医療を担う医師・医学研究者を養成することにある。医学科の所定の課程を履修して取得できる資格は、医師国家試験受験資格であり、卒業後は医師国家試験に全員合格し、優秀な医師や医学者の道に進むことができる学士（医学）を養成できている。具体的には、医学研究への取り組みを早期から体験するための基礎演習、医療への取り組みの心を涵養するための早期臨床体験実習 I・II・III、チュートリアル教育、ローテーション臨床実習、特別臨床実習（診療参加型クリニカルクラークシップ制）の体験型実習が多く組み込まれている。これらの体験型実習においては学生が主体的に取り組むように工夫がなされている。特に早期臨床体験実習 II、ローテーション臨床実習、特別臨床実習においては、医学部附属病院内の全ての診療部門、診療科が実習場所の提供、医学科学生指導・評価に参加協力しており、このことは医学科学生教育の中での大きな特徴と言える。医学科での座学で培われた知識を実際に活用できる医学科学生に育てていく過程で役割を十分に果たしているものと言える。

(資料 A-1-1-1)

- ・ 医学科アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

● AP: アドミッションポリシー

熊本大学医学部医学科の使命を達成するために、医学部医学科では、次のような人を求めています。

1. 病める人たちやその家族の気持ちを理解できる人
2. チーム医療の中心的役割を果たすための優れた協調性を持つ人
3. 地域医療に関心を持ち、地域住民の健康増進に貢献する意欲を持つ人
4. 科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人
5. 社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人
6. 日々進歩する医学や医療の最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学習を継続できる人

● CP: カリキュラムポリシー

熊本大学医学部医学科の使命を達成するため、医学科学生が卒業する際に獲得しているべき能力を明文化した「熊本大学医学部医学科教育成果」を定めています。これは、7つのコア教育成果(大項目、A. 豊かな人間性、B. 基本的診療能力、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践、E. 医科学研究、F. 国際的視野、G. 地域医療と社会貢献)と、それぞれの下位に属する総計50の教育成果(小項目)からなります。医学科ではこれら教育成果を学年進行に応じて段階的に学修し、卒業時にはすべての教育成果を獲得できているようにカリキュラムを編成しています。

体系性:教育成果を獲得するため、各分野の学問体系に従った教育過程をバランスよく編成しています。

段階性:学年進行に従って段階的に教育成果を獲得できるよう編成しています。

個別性(進路への対応):教育成果を獲得することにより、臨床医だけでなく医学研究者や医療行政担当者まで、様々な進路に対応できるようになっています。

● DP: ディプロマポリシー

熊本大学医学部医学科の使命を達成するため、「熊本大学医学部医学科教育成果」を定めています。7つのコア教育成果(大項目、A. 豊かな人間性、B. 基本的診療能力、C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム、D. チーム医療と信頼される医療の実践、E. 医科学研究、F. 国際的視野、G. 地域医療と社会貢献)とそれぞれの下位に属する総計50の教育成果(小項目)を獲得するために編成された教育課程を学修し所定の単位を取得、これら教育成果を獲得した者に学士(医学)の学位を授与します。

(出典：医学部 Web サイト)

(資料 A-1-1-2)
 ・熊本大学医学部医学科教育成果

熊本大学医学部医学科教育成果

熊本大学医学部医学科教育成果

コア教育成果

- A. 豊かな人間性**
- B. 基本的診療能力**
- C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム**
- D. チーム医療と信頼される医療の実践**
- E. 医科学研究**
- F. 国際的視野**
- G. 地域医療と社会貢献**

教育成果

A. 豊かな人間性

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、病める人たちやその家族の気持ちを理解した対応がとれる。

1. 社会通念や一般常識に基づいて行動し、法規及び規則を遵守する。
2. 患者及びその家族の立場を尊重し、誠実、利他的、共感的に対応できる。
3. 患者及びその家族固有の心理的、社会的、文化的背景に配慮した対応ができる。
4. 医学、医療に影響を及ぼす文化、社会的要因について説明できる。
5. 組織のリーダーとして行動するために、どのような人間性が求められるかを理解する。

B. 基本的診療能力

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、医師となるにふさわしい、統合された知識、技能、態度に基づき、全身を総合的に診療するための実践的能力を有する。幅広い疾患の診断論治療論を理解し、一部を実践できる。

【基本的知識】

1. 人の正常な構造と機能、発生、発達、成長、加齢、死、心理、行動について説明できる。
2. 疾患の原因、病態、自然経過、危険因子と予防について説明できる。
3. 治療の原理（薬物治療、放射線治療、外科治療など）について説明できる。
4. 疫学、人口統計、環境、行動科学について説明できる。

熊本大学医学部医学科教育成果

【医療の実践】

5. 心理、社会的背景を含む患者の主要な病歴を、患者に配慮しつつ正確に聴取できる。
6. 成人及び小児の基本的診察手技を適切に実施できる。
7. プロブレムリストを立て、鑑別診断を行い、診療録（電子カルテ含む）を作成できる。
8. 疾患の診断と治療に必要な臨床検査、検体検査、画像診断、病理診断を選択し、結果を解釈できる。
9. 疾患の診断と治療について、患者の背景と医学的根拠に基づき、優先順位を考慮して計画できる。
10. 慢性疾患の長期的フォローアップやリハビリテーションに参加できる。
11. 救急医療、集中治療に参加できる。
12. プライマリケアに参加できる。
13. 緩和医療、終末期医療の概要を理解している。
14. 患者教育の概要を理解している。

C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、医師あるいは医学者としてのキャリアを継続し、生涯にわたって自己学習を継続することができる。高い倫理観をもって、生命の尊厳と人の命と健康を守る医師としての職責を深く認識している。

【自己研鑽】

1. 自己の現状を適切に評価して、目標を設定できる。
2. 自己の目標を達成するための方法を考え、自己学習ができる。
3. 自らのキャリアをデザインし、自己の向上を図るため、達成に向けて学習を継続できる。

【プロフェッショナリズム】

4. 患者にとって最善の治療を提供する意識を持つ。
5. 常に自分の知識、技能、行動に責任を持って患者に向き合うことができる。
6. 倫理的問題を把握し、倫理的原則に基づいて行動できる。
7. 医療に関連した法規（守秘義務を含む）を遵守する。
8. 情報を適切に管理・利用することができる。

熊本大学医学部医学科教育成果

D. チーム医療と信頼される医療の実践

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、医療は患者を中心におき、多職種の医療構成員よりなるチームで実践されることを理解する。患者やその家族、チーム医療構成員などと良好な信頼関係を築くためのコミュニケーション能力を有する。患者に信頼されるために医療安全やインフォームドコンセントが重要であることを理解する。

【コミュニケーション】

1. 基本的なコミュニケーションスキルを理解し、実践できる。

【チーム医療】

2. 医療職種の専門性を理解し、チーム医療における役割について説明できる。
3. 医師同士や他職種との信頼関係を築くために、コミュニケーションが重要であることを理解する。

【患者に信頼される医療】

4. 医療を実施する上で良好な患者-医師関係を構築できる。
5. 患者及びその家族との良好なコミュニケーションを実践できる。
6. インフォームドコンセントの重要性を理解する。
7. 患者の安全性を確保した医療を実践できる。
8. 医療の安全性と危機管理について説明できる。

E. 医科学研究

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、旺盛な科学的探究心を有する。医学研究の基本を理解し、既存の研究成果を論理的かつ客観的に評価できる。また、現代医学における問題抽出とそれを解決するための研究計画立案を倫理原則に則って行える。

1. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解する。
2. 基礎および臨床研究に関する倫理的事項を理解する。
3. 論文等から情報を適切に収集でき、未解決の医科学的問題を抽出し、仮説を立案できる。
4. 立案した計画に基づき医科学の興味ある領域での研究を指導のもと実践できる。
5. 新しい知見を明確に説明し、論理的かつ客観的に評価できる。

F. 国際的視野

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、社会に対する幅広い視野を有し、本邦および国際社会における医療及び保健の現状を理解する。

1. 国際社会において、情報を共有するに足る英語力を有する。

熊本大学医学部医学科教育成果

2. 国内および国際社会に貢献する意欲を持つ。
3. 国際社会における医療及び保健の現状を理解する。
4. 医学・医療の研究、開発が国際社会に貢献することを理解する。

G. 地域医療と社会貢献

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、地域医療の現状と問題点を認識している。地域住民の健康増進に貢献するため、地域の保健・医療・福祉・介護及び行政との連携協力するための知識、技能、態度を有する。

1. 各種保険制度など医療制度を理解する。
2. 患者と患者家族の健康の維持、増進のために地域の保健、福祉、介護施設の適正な活用が重要であることを理解する。
3. 地域の健康・福祉に関する問題を掌握し、疾病予防プランを立てるための知識を習得する。
4. 地域医療の実践が社会貢献に必要であることを理解する。
5. 医学・医療の研究開発が社会に貢献することを理解する。
6. 熊本県固有の事例を通して、熊本県の地域医療を理解する。

(出典：熊本大学医学部医学科教育成果)

保健学科は、看護学専攻・放射線技術科学専攻・検査技術科学専攻の3専攻からなり、医療生命倫理を含めた豊かな教養、ならびに医療を取り巻く環境の変化に対応しうる高度な専門的知識・技術を備え、医療チームの一員として、疾病の予防、地域住民の健康の保持・増進、さらには生活の質向上に広く貢献できる医療者・研究者・教育者を育成することを基本理念としている。この理念のもと、6項目からなる3専攻共通の教育目標を設定するとともに、看護学専攻で5項目、放射線技術科学専攻で6項目、検査技術科学専攻で7項目の教育目標もそれぞれ設定している。

保健学科の特徴として、所定の課程を修了すれば国家試験受験資格を取得できることが挙げられる。看護学専攻では看護師国家試験受験資格・保健師国家試験受験資格・助産師国家試験受験資格、放射線技術科学専攻では診療放射線技師国家試験受験資格、検査技術科学専攻では臨床検査技師国家試験受験資格が取得できる。また、看護学専攻においては、保健師免許取得後に都道府県の教育委員会に申請すれば、養護教諭二種免許状が取得できる。

[想定する関係者とその期待]

医学科では、想定される関係者として、在学生、教職員の他に、医療機関関係者や患者及びその家族、更には地域住民を含め社会全体を対象とし、豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を追求、達成しうる人物を養成することが期待される。

保健学科では、想定される関係者として在学生、教職員の他に、医療機関関係者や患者及びその家族、更には地域住民を含めた社会全体を対象とし、豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学・保健学、およびその関連領域における社会的な使命を追究、達成しうる人物を養成することが期待される。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

(医学科) 医学科の教育は、卒業後に医師・医学研究者として第一歩を歩む上での最低限の知識・技能・態度を獲得できるカリキュラムである。特筆すべき医学科の特徴として、基礎研究の基盤を早期から培うプログラムである柴三郎プログラムを構築し運用するなど、全国的にも不足している医師の資格を有する基礎医学研究者の育成にも力を入れている。

医学教育の国際認証の受審・獲得に向けた準備委員会を立ち上げ、具体的な作業に着手し、平成31年度の受審に向けて万全の準備を進めている。

(保健学科) 保健学科の教育は、標準的なカリキュラムであり、卒業後に看護師・保健師・助産師・診療放射線技師・臨床検査技師、および医学研究者として活動する上での最低限の知識・技能・態度を獲得できるものであると考えられる。いずれの専攻においても、高い国家試験合格率と就職率を維持していることから、現状の教育内容は一定の成果を挙げているものと考えられる。

また、平成30年度から、チーム医療の質的向上を目的として、従来4年次に開講していた3専攻合同のチーム医療演習に加え、新たに「保健学概論」も開講することとした。

【改善を要する点】

(医学科) 本邦での大学医学教育においては、国際的な医学教育の質保証が求められており、医学教育分野別認証評価制度がスタートしている。その中でも特に臨床参加型臨床実習の推進と臨床実習期間の延長の必要性が問われており、平成28年度には「診療参加型臨

床実習」を、平成 29 年度には「医学教育分野別認証評価受審に向けて」をテーマとして医学教育 FD ワークショップを実施した。これらの成果を踏まえて、カリキュラム企画・評価委員会において具体的な臨床実習スケジュールを作成し、平成 30 年度から新カリキュラムでの診療参加型臨床実習の導入を行うこととしているが、今後は新たな診療参加型臨床実習の教育効果について評価する必要がある。

(保健学科) 先述の如く、新たに「保健学概論」を開講するなど、チーム医療の質的向上に向けた教育改革に取り組んでいるものの、現状まだ志半ばの状態である。今後もチーム医療をテーマとした FD セミナーの実施など、積極的な取り組みを継続して行っていく必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

(医学科) 医学科は、単一専攻科であり独自性のある教育組織を構成するとともに、専門科目は教員が協力体制を組み、学士課程における教育目的が達成できる構成としている。医学科の教育を担当する教員は生命科学研究部の教員組織または医学部附属病院に属し、専門基礎科目、基礎医学科目(分子細胞生物学、生体構造学、生体機能学、感染免疫学、病態学、社会医学、総合医学)と臨床医学科目(内科学、外科学、成育医学、感覚・運動科学、脳・神経・精神科学、総合医学)さらに医療情報学や漢方医学などを他学部、学内共同教育施設等の協力で、それぞれ連携をとりながら高度な専門知識を医学生に対して教育している。なお、1、2年次の教養教育は大学教育統括管理運営機構の統括の下で実施している。

また、医学科においては教育に係る活動は教育・教務委員会が役割を担い、毎月一回開催し、必要に応じて臨時で開催している。審議事項は、教育課程の編成及び授業に関する事、学生の修学指導に関する事、学生の入学、退学、転学、休学、復学、転部及び卒業に関する事、科目等履修生に関する事、その他教務に関する事である。教育活動に係る重要事項は教育・教務委員会で審議した後、医学科会議及び、医学部運営会議で審議し、最終的な決定を行っている。

入学者選抜に関しては、平成 22 年から地域医療を担う医師の確保と養成のために推薦入試の中に地域枠を導入し、また、前期日程については、平成 26 年度入試から医師となるために必要な適性や将来性なども重視するために面接試験を導入するなどの改革を行ってきた。さらに平成 28 年度から後期日程を行わないこととした(資料 A-1-1-3)。

(資料 A-1-1-3)

・医学科入学試験志願倍率

年度	前期日程	後期日程	推薦入試Ⅱ
平成 27 年度	6.7	12.3	2.7
平成 28 年度	3.8	—	2.7
平成 29 年度	5.7	—	2.6
平均倍率	5.4	12.3	2.7

(出典：熊本大学データ集)

(保健学科) 保健学科の教員組織は、看護学、および放射線技術科学専攻と検査技術科学専攻で構成される医療技術科学の2講座となっている。さらに、看護学講座は5分野(基礎看護学・看護教育学・臨床看護学・母子看護学・地域看護学)、医療技術科学講座は放射線技術科学専攻2分野(医用理工学・医用画像学)と検査技術科学専攻2分野(構造機能解析学・生体情報解析学)にそれぞれ分類されている。

平成29年度時点での専任教員数は、看護学専攻25名、放射線技術科学専攻12名、検査技術科学専攻14名の計51名(男性26名、女性25名)で、第2期中期目標期間終了時より6名減となっている。(資料A-1-1-4) 全教員数に女性教員が占める割合は約49.0%である。また、専任教員の年齢構成分布は、25～34歳4名(7.8%)、35～44歳12名(23.5%)、45～54歳15名(29.4%)、55～64歳20名(39.2%)である。(資料A-1-1-5)

学生の自主学習環境としては、保健学科内に自習室(A201a・A201b・A201c)、第一情報演習室(A204:パソコン48台設置)、第二情報演習室(B201:パソコン32台設置)と保健学図書室(C302)、学生閲覧室(C309)がある。保健学科棟には無線LANの環境も整備されており、学習しやすい環境となっている。

教育課程の編成や授業科目に関することは、毎月開催される教務委員会での検討を経た後、保健学科会議・医学部運営会議で審議、議決している。(中期計画番号11)

教職員側の指導能力、及び教育活動を評価する方法としては、「授業改善のためのアンケート」調査を有効活用している。集計されたアンケート結果をもとに、各教員が自己の教育の質、問題点を分析し、授業の改善に役立てている。また、毎年5回以上のFDセミナーを継続的に実施する(資料A-1-1-6)とともに、教員間での授業参観も実施し、意見交換することで、教育の質向上につなげている。

入試に関しては、平成26年度から平成29年度の入試倍率は、いずれも大きな変化はない(資料A-1-1-7)が、平成30年度入試からは後期日程を廃止し、推薦枠を広げることで、これまで以上に意欲と熱意のある学生を獲得できるよう努めている。

保健医療系基礎科目や各専攻の専門科目を開放科目とし、社会人教育にも力を入れている。平成26年度と平成29年度には、研究生や科目等履修生も受け入れた。

(資料A-1-1-4)

・保健学科教員数一覧

平成29年4月1日現在

部門名	講座名	分野名	教授	准教授	講師	助教	計
環境 社会 医学	看護学	基礎看護学	1(1)	1(1)	1(1)	2(2)	5(5)
		看護教育学	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	1(1)
		臨床看護学	4(3)	2(2)	0(0)	3(3)	9(8)
		母子看護学	1(0)	1(1)	2(2)	2(2)	6(5)
		地域看護学	1(1)	1(1)	0(0)	2(2)	4(4)
		小計	7(5)	5(5)	3(3)	10(10)	25(23)
先端生 命医療 科学	医療技 術科学	医用理工学	3(0)	2(0)	0(0)	2(1)	7(1)
		医用画像学	4(0)	0(0)	1(0)	0(0)	5(0)
		構造機能解析学	3(0)	0(0)	1(0)	2(0)	6(0)
		生体情報解析学	6(0)	0(0)	0(0)	2(1)	8(1)
		小計	16(0)	2(0)	2(0)	6(2)	26(2)
		合計	23(5)	7(5)	5(3)	16(12)	51(25)

() は、女性で内数

(出典：生命科学研究部(保健学系)教員定員現員表より集計)

(資料 A-1-1-5)

・年齢別教員数一覧 (保健学科) 平成 29 年 4 月 1 日現在

年齢区分	人数	割合
25 歳～34 歳	4	7.8%
35 歳～44 歳	12	23.5%
45 歳～54 歳	15	29.4%
55 歳～64 歳	20	39.2%
計	51	100%

(出典：保健学系教員名簿より集計)

(資料 A-1-1-6)

・保健学系 FD セミナー開催実績

年度	実施月	開催場所	内容	延べ参加者数(人)	延べ時間数(時間)				
平成 26 年度	7 月	保健学科大会議室	平成25年度新任教員による研究ならびに教育活動に関する紹介	28	1.5				
	8 月	B401	授業参観 (保健学教育部)	23	1.5				
	9 月	保健学科大会議室	授業参観 (8 月 1 日) の実施報告	39	1				
			平成 25 年度「授業改善のためのアンケート」実施報告 卒業予定者アンケート等に関する意見照会について						
	12 月	C503、A312、A307	授業参観 (医学部保健学科)	44	5				
1 月	保健学科大会議室	授業参観 (12 月 12 日) の実施報告	34	1					
平成 27 年度	6 月	保健学科大会議室	1. 平成 26 年度新任教員による研究ならびに教育活動に関する紹介 (1) 田代浩徳 教授(看護) (2) 三笠里香 教授(看護) 2. 授業参観の実施について	48	1				
			6 月			A211教室	授業参観 (保健学教育部)	24	2
			7 月			保健学科大会議室	平成 26 年度新任教員による研究ならびに教育活動に関する紹介 (1) 生田まちよ 講師 (看護) (2) 藤原康博 講師 (放射) (3) 大林光念 教授 (検査)	42	2
	9 月	保健学科大会議室		(1) 平成 26 年度「授業改善のためのアンケート」実施報告 (2) 平成 27 年度授業参観について	34		1		
	9 月	C110教室		授業参観 (医学部保健学科)					
	10 月	A307教室	授業参観 (医学部保健学科)	12	2				
	10 月	A306教室	授業参観 (医学部保健学科)	8	2				
	1 月	保健学科大会議室	授業参観実施報告	48	1				
平成 28 年度	7 月	保健学科A211教室	授業参観	20	1.5				
	10 月	保健学科A312教室	授業参観	24	1.5				
	10 月	保健学科C503教室	授業参観	16	1.5				
	11 月	保健学科大会議室	新任教員による研究ならびに教育活動に関する紹介	36	0.5				
	11 月	保健学科大会議室	授業参観及び授改善アンケート結果報告	38	1				
平成 29 年度	5 月	保健学科第一会議室	成績評価の考え方についての検討会	12	2				
	6 月	保健学科第二会議室	成績評価の考え方についての検討会	26	2				
	6 月	保健学科大会議室	FDセミナー	35	1.5				
	7 月	保健学科大会議室	FDセミナー	41	0.5				
	10 月	保健学科A312講義室	授業参観	35	1.5				
	10 月	保健学科A211講義室	授業参観	35	1.5				
	10 月	保健学科大会議室	FDセミナー	22	1				
	12 月～1 月	-	シラバスチェックの実施報告	52	-				
2 月	-	FDセミナー (全教員へメールで報告)	52	-					

(出典：大学データ集)

(資料 A-1-1-7)

・保健学科入学試験実施状況倍率

	前期日程	後期日程	推薦入試Ⅱ	社会人
平成 26 年度	2.5	3.4	2.8	0.0
平成 27 年度	1.9	2.9	3.2	2.0
平成 28 年度	2.2	2.9	4.0	2.5
平成 29 年度	2.3	3.5	2.2	1.5
平均倍率	2.2	3.2	3.1	2.0

(出典：入試システムより抽出)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

(医学科) 教育・教務委員会および医学科会議の取り組みや活動は良好であり、一定の成果が得られ、医学科の組織で想定する関係者の期待に込めている。また、医師国家試験の合格率は平均的であるが、学生の講義や実習における態度も向上し、学問的自由と自律的行動を尊重しつつ、医学生として必要不可欠な教育は提供されている。

(保健学科) 「授業改善のためのアンケート」の有効利用や、教員間での授業参観とその内容に関する意見交換を行うことにより、教育の質保証に努めている。教員の定数削減によるマンパワー不足には、3専攻合同講義を増やす、学内非常勤講師を増やす、などの工夫を凝らし、何とか対応している。

観点 教育内容・教育方法

(観点到係る状況)

(医学科)

教育カリキュラム

医学科学生の本能的なニーズは、良き医師および優れた医学者になるための基礎能力を6年間で身につけ、医師国家試験に合格することである。教養教育は人格形成およびプロ意識確立、さらには豊かな人間性と広い社会性を身に付けるために不可欠な履修科目として位置付けており、教養教育実施を重要視しており、医学科学生は、1年次は週3日、2年次は週1日、教養教育を履修している。

また、医学科専門科目はすべてが必修科目となっており、1年次には主に専門基礎科目、基礎医学科目の講義・実習を履修する。また1年次後期に早期臨床体験実習Ⅰを学外の老健施設などの医療施設にて行い、医学・医療を学ぶ動機を高め、その重要性を認識させている。2年次は、主に専門基礎科目、基礎医学科目の講義・実習を履修する。また早期臨床体験実習Ⅱを実施し、熊本大学医学部附属病院での見学実習を行う。3年次前期は、研究室配属実習である基礎演習を行い、医科学研究の立案と実施を指導教官のもとで行う。後期からは臨床医学科目を履修する。また早期臨床体験実習Ⅲを実施し地域医療を担う医療機関での実習を行う。4年次前期には、臨床医学科目の講義を履修し、後期にはチュートリアル実習、臨床実習入門コース、共用試験(CBT、OSCE)を経て、臨床実習が開始となる。29週間のポリクリローテーションの後、1ターム3週間、15タームのクリニカルクラクシップに臨み、診療参加型臨床実習を行う。このローテーション臨床実習は医学部附属病院で行われており、生命科学研究部医学系臨床分野教員、附属病院教員の多大な協力のもとに実施されている。平成29年度からは「教育医長制度」を設け、臨床実習の質を

高める取り組みを行っている。特別臨床実習（クリニカル・クラークシップ）は、基本は附属病院診療科での実習となっているが、診療科によっては実習効果を高めるために、附属病院診療科と連携の深い県内外の病院での実習も行っている。

- ・カリキュラムの検証

医学部医学科におけるファカルティ・ディベロップメント(FD)は、教員の他、研修医及び医学科学生への参加も得て、医学教育ワークショップ（資料 A-1-2-1）として年 1 回行われている。FD で取り組む内容は、医学科カリキュラムや医学教育全般であり、その成果は、カリキュラム企画・評価委員会、教育・教務委員会及び医学科会議において報告されるとともに、実際に医学科の教育に取り入れる内容については、前記会議において更に検討し、審議のうえ、実行に移している。

- ・授業内容

医学部医学科では、卒業要件に必要な 249 単位は講義、演習、実験、臨床実習等で構成されている。基礎科目は講義中心であるが、基礎科目から臨床科目に進行するに際して、チュートリアルなどの時間を積極的に導入し、講義と演習あるいは実験、臨床実習を組み合わせ合わせた効果的な学習指導を実現し、医学知識を得た後、学生が体験学習できるような授業形態を配慮している。また臨床部門においては、早期より学外の医療施設などでの臨床体験ができるよう工夫している。基礎関連の講義では大人数のものが多く、チュートリアル実習などは、少人数ごとにグループワークを組み入れて討議・発表の時間を設け、知識を自分の体験におきかえられるよう工夫を行っている。

なお、医学科のカリキュラムにおいては、医学教育のガイドラインとして示されている「医学教育モデル・コア・カリキュラム」（資料 A-1-2-2）を基本にしながら、適宜大学及び教員の判断で、生命科学および医療関連領域の諸研究の最新の知見を学生に提示している。

- ・授業内容の検証

全学的に実施されている「授業改善のためのアンケート」（資料 A-1-2-3）は、医学科でも授業終了 1 回前の授業の最後に実施している。その他、医学科では各授業科目終了時点で、学生による授業評価を実施するように授業担当者に働きかけている。アンケートに対しては、担当教員からの意見改善策を提示している。

- ・特色ある教育プログラム

文部科学省の「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」事業に採択されたプログラムで、基礎研究の基盤を早期から培う「柴三郎プログラム」を構築している。これは医学教育において基礎医学研究マインドを持った人材を輩出することを目的としたプログラムで、高校生から生物・医学研究に興味を持つ人材を発掘・育成し（柴三郎 Jr. の発掘）、その後医学部学生時代（プレ柴三郎コース）から大学院修了（柴三郎コース）までシームレスに研究ができる環境を与え、研究の指導・支援するものである。医学部学生を対象としたプレ柴三郎コースでは、柴三郎コースへ進学を希望する学生を選抜（5～10 人）し、研究室での研究活動に加え、学部 4 年次から科目等履修生として大学院講義の聴講を可能とし、単位を早期取得できるシステムを導入している。（資料 A-1-2-4）（資料 A-1-2-5）

また、3 年次に早期臨床体験実習 III を導入し、地域医療を担う医療機関での実習を通して、地域医療について学ぶ機会を提供している。（中期計画番号 5）

(資料 A-1-2-1)

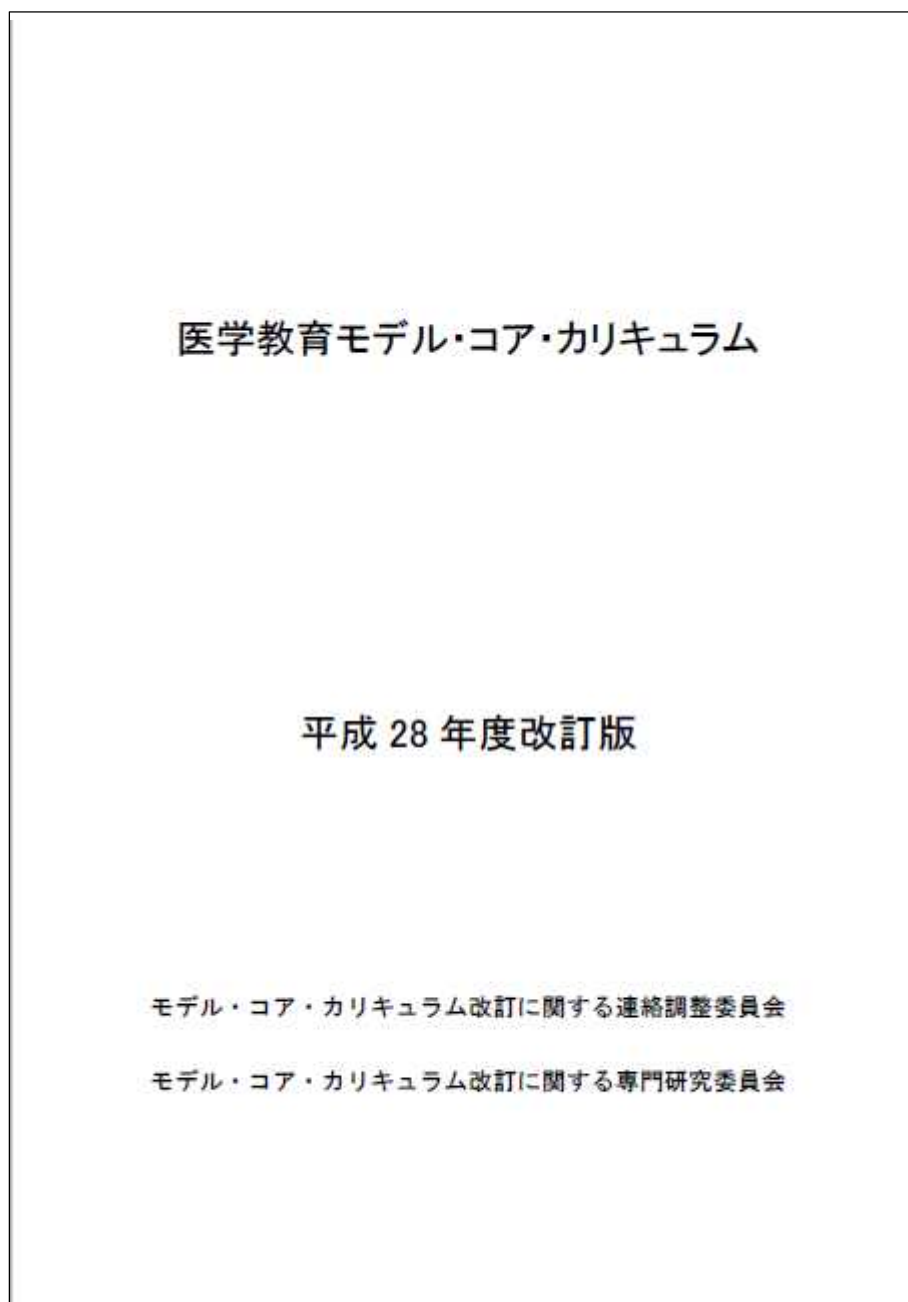
・医学教育FDワークショップ実施状況(過去5年)

年度	テーマ	参加人数
平成26年度	昨年作成した教育成果を踏まえ(1) 学生が教育成果を獲得するためにはどのような教育方略を実施すべきか、(2) 教育成果を獲得したかどうかをどのように評価するか、の検討	53
平成27年度	熊本大学の診療参加型臨床実習をデザインする	41
平成28年度	熊本大学の診療参加型臨床実習を充実させるために	46
平成29年度	医学教育分野別評価受審に向けて	62

(出典：各年度医学教育FDワークショップ資料)

(資料 A-1-2-2)

・医学教育モデル・コア・カリキュラム(表紙)



(出典：医学教育モデル・コア・カリキュラム冊子)

(資料 A-1-2-3)

・ 授業改善のためのアンケート票

＜授業改善のためのアンケート票(医学部医学科用)＞

このアンケートは、本学の授業改善に役立てることを目的に実施するものです。アンケートに、あなたの学生番号・氏名を書く必要はありません。成績評価などについて、あなたが不利益になることはありません。
このアンケートに対する回答の集計結果および授業担当教員のコメントは、ホームページ上で公表されます。
アンケート票は、全学共通の質問と、各学部等の質問とからなっています。熊本大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

次の注意事項をお守り下さい。

- ①回答はHB黒鉛筆(シャープペンシル可)を使用のこと。
- ②訂正はプラスチック消しゴム等で完全に消すこと。
- ③回答にあたってはマークを完全に塗りつぶすこと。
- ④所定の場所以外は記入しないこと。
- ⑤回答用紙は折り曲げないこと。

学部コード	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
時間割コード	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗
	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱

※記入例

よい例	<input type="radio"/>	悪い例	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
-----	-----------------------	-----	--------------------------	--------------------------	--------------------------

多肢選択の質問については、1~4 または 1~5 の中からあてはまる番号を一つ選んで、マークシートの回答番号欄をHBの鉛筆で塗りつぶしてください。また、最後の質問については、あなたの考えを自由に書いてください。

1. 授業の難易度は、どうでしたか。 1 非常に難しかった 2 少し難しかった 3 ちょうどよかった 4 少し易しかった 5 非常に易しかった	①	②	③	④	⑤
2. 教員の声は、聞き取りやすかったですか。 1 非常に聞き取りやすかった 2 聞き取りやすかった 3 聞き取りにくかった 4 非常に聞き取りにくかった	①	②	③	④	⑤
3. 授業の手段(教科書・プリント、板書、映像視聴教材(ビデオ、パワーポイントなど)等)は、有効でしたか。 1 非常に有効だった 2 有効だった 3 あまり有効ではなかった 4 全く有効ではなかった	①	②	③	④	⑤
4. Aの授業において、教員との双方向的なやりとり(授業中の質疑応答、受講生のレポートへの教員のコメント、質問カードの利用などが)、どの程度行われていましたか。 1 十分に行われていた 2 少し行われていた 3 あまり行われていなかった 4 全く行われていなかった	①	②	③	④	⑤
5. 授業の目標は、どの程度明示されていましたか。 1 十分に明示されていた 2 少し明示されていた 3 あまり明示されていなかった 4 全く明示されていなかった	①	②	③	④	⑤
6. あなた自身は、授業の目標をどの程度達成したと思いますか。 1 十分に達成できた 2 少し達成できた 3 あまり達成できなかった 4 全く達成できなかった	①	②	③	④	⑤
7. 大学の授業の単位は、授業時間の2倍の時間外学習を前提として、取得できることになっています。あなたは、この授業について1週あたり平均して、どの程度、授業時間外の学習(予習・復習、資料収集、文献精読、レポート作成など)をしましたか。 1 2時間以上 2 2時間以上3時間未満 3 1時間以上2時間未満 4 1時間未満 5 全くしなかった	①	②	③	④	⑤
8. 全体として、この授業はどの程度有意義でしたか。 1 非常に有意義だった 2 有意義だった 3 あまり有意義ではなかった 4 全く有意義ではなかった	①	②	③	④	⑤
(医学部医学科固有の質問項目)					
9. この授業は、医学教育モデル・コア・カリキュラムに沿って行われましたか。 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	①	②	③	④	⑤
10. 実習には、あなたはどの程度熱心に取り組みましたか。 1 とても熱心に取り組んだ 2 熱心に取り組んだ 3 あまり熱心に取り組まなかった 4 熱心に取り組まなかった 5 実習はなかった	①	②	③	④	⑤
11. 実習時間以外にどの程度自分で勉強しましたか。 1 2時間以上 2 1時間以上2時間未満 3 1時間未満 4 全くしなかった 5 実習はなかった	①	②	③	④	⑤
12. 実習目標はどの程度達成できましたか。 1 かなり達成できた 2 達成できた 3 あまり達成できなかった 4 全く達成できなかった 5 実習はなかった	①	②	③	④	⑤
13. 教員の実習指導は理解しやすかったですか。 1 とても理解しやすかった 2 理解しやすかった 3 どちらかといえば理解しにくかった 4 理解しにくかった 5 実習はなかった	①	②	③	④	⑤
14. 実習への満足度はどの程度ですか。 1 とても満足した 2 満足した 3 あまり満足できなかった 4 全く満足できなかった 5 実習はなかった	①	②	③	④	⑤

授業改善のための意見

この授業で、よかった点、改善してほしい点を、具体的に書いてください。

ご協力ありがとうございました。

(出典：授業改善のためのアンケート票)

(資料 A-1-2-4)

・柴三郎プログラム概要

熊本大学大学院医学教育部 柴三郎プログラム

熊本大学大学院医学教育部 柴三郎プログラム

トップページ 北里柴三郎先生について プログラムの概要 プログラムの詳細 募集要項 ダウンロード お問い合わせ

熊本発! 基礎研究医養成プログラム始動

北里柴三郎先生のような優秀な医学研究医、特に基礎研究医を養成
卒業後臨床研修と大学院での研究を効率良く両立

柴三郎プログラム基金への寄付のご案内

履修学生からのメッセージ

ロゴマークについて

最新のお知らせ一覧

- 夏期セミナーの申し込み締め切りを7月19日(木)まで延長しました
- 高校生を対象とした夏期セミナーの開催について
- 平成30年度柴三郎プログラム基金教育研究活動支援制度の募集について
- 平成30年度 柴三郎プログラム学生の奨学生募集について

柴三郎プログラムの3つのプログラムとその特徴

高校～大学～大学院終了までシームレスに医学・生命科学研究を实践

- 柴三郎Jr.の発掘
- プレ柴三郎プログラム
- 柴三郎プログラム

新着情報

- 2018.07.17 夏期セミナーの申し込み締め切りを7月19日(木)まで延長しました
- 2018.06.27 高校生を対象とした夏期セミナーの開催について

(出典：柴三郎プログラム Web サイト)

(資料 A-1-2-5)

柴三郎プログラムの在籍生の推移状況について (H29.12 末現在)

(単位：人)

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	累計
柴三郎 Jr. の発掘	10	13	23	26	18	18	108
プレ柴三郎プログラム	4	12	6	8	8	5	43
柴三郎プログラム	(未開講)	2	2	3	4	4	15

(出典：柴三郎プログラムパンフレット等)

(保健学科)

保健学科の専門教育は、専門基礎科目と専門科目の2つで構成されている。このうち専門基礎科目では、各専攻単位での専門基礎科目に加え、3専攻共通の保健医療系基礎科目も設けており、専門科目としての「3専攻合同チーム医療演習」の充実につなげている。さらに、1年次から教養教育、専門教育を並行して実施し、early medical exposure を実現させている。(資料 A-1-2-6)

シラバスは、保健学系 FD 委員会、教務委員会を中心に適宜見直しを図っており、講義を中心とした座学の内容が、実験・実習・演習に最大限生かされるよう、常に工夫している。

(資料 A-1-2-7) (資料 A-1-2-8) (中期計画番号 11)

国際的視野をもった医療人の育成を目標に、3専攻共通の保健医療系基礎科目「国際医療・保健活動論」を、また保健学研究手法の基礎を習得するための「リサーチトレーニング」をそれぞれ必修としている。(資料 A-1-2-9) (資料 A-1-2-10)

(資料 A-1-2-6)

・保健学科の授業科目・単位数（看護学専攻）

看護学専攻

(1) 専門基礎科目

区分	授業科目	単位数	必修	選択	備考
保健医療系基礎科目（各専攻共通）	生体の構造と機能				
	人体構造学Ⅰ	2	◎		
	人体構造学Ⅱ	2	◎		
	生体機能学Ⅰ	2	◎		
	生体機能学Ⅱ	2	◎		
	生化学Ⅰ	2		○	
	生体防衛学	2	◎		
	遺伝学	1		○	
	病原生物学Ⅰ	2	◎		
	臨床薬理学	2	◎		
	病理学Ⅰ	2	◎		
	保健学概論	2	◎		
	臨床医学総論Ⅰ	2	◎		
	救急医学概論	1		○	
	チーム医療演習	1	◎		
医事法	1	◎			
社・健・環・福					
保健衛生学Ⅰ	2		○		
保健衛生統計学	2	◎			
医療外国語	2	◎			
保健医療系基礎科目（各専攻共通）小計		32			
攻護科専攻					
学目門基	保健医療福祉行政論	2		○	
専へ看護	臨床医学総論Ⅱ	2	◎		
	臨床栄養学	1	◎		
専門基礎科目（看護学専攻）小計		5			
合計		37			

備考 * 保健医療系基礎科目（各専攻共通）の選択科目と専門基礎科目（看護学専攻）の選択科目より2単位以上を選択する。

(2) 専門科目

区分	授業科目	単位数	必修	選択	備考
基礎看護学	看護学概論	2	◎		
	看護方法論Ⅰ	3	◎		
	看護方法論Ⅱ	2	◎		
	看護方法論Ⅲ	2	◎		
	看護方法論Ⅳ	1	◎		
	基礎看護学実習Ⅰ	1	◎		
	基礎看護学実習Ⅱ	2	◎		
	看護管理学概論	1	◎		
	実践看護学				
	フィジカル・メンタルアセスメントⅠ	1	◎		
フィジカル・メンタルアセスメントⅡ	2		○		
フィジカル・メンタルアセスメント演習	1		○		
実践看護学実習Ⅰ	1	◎			
実践看護学実習Ⅱ	2		○		
成人看護学					
成人臨床看護学Ⅰ	2	◎			
成人臨床看護学Ⅱ	2	◎			
成人臨床看護学Ⅲ	1	◎			
成人臨床看護学Ⅳ	1	◎			
成人臨床看護学実習Ⅰ	3	◎			
成人臨床看護学実習Ⅱ	3	◎			
精神看護学					
精神保健看護学	2	◎			
精神臨床看護学Ⅰ	1	◎			
精神臨床看護学Ⅱ	2	◎			
精神看護学実習	2	◎			
小児看護学					
小児保健看護学	1	◎			
小児臨床看護学Ⅰ	2	◎			
小児臨床看護学Ⅱ	1	◎			
小児看護学実習	2	◎			
母性看護学					
母性保健看護学	1	◎			
母性看護疾病治療学	2	◎			
母性臨床看護学	1	◎			
母性看護学実習	2	◎			
助産学					
助産学概論	1		○		
リプロダクティブヘルス/ライツⅠ	2		○		
リプロダクティブヘルス/ライツⅡ	1		○		
新生児学	1		○		
周産期運動生理学	1		○		
助産診断・技術学Ⅰ	2		○		
助産診断・技術学Ⅱ	2		○		
助産診断・技術学Ⅲ	2		○		
母性の心理・社会学	1		○		
母子援助論	1		○		
地域母子保健論	1		○		
助産管理論	2		○		
助産学実習	9		○		
地域看護学					
健康教育論Ⅰ	1		○		
ライフスタイルと健康援助論	1		○		
住民健康学習論	2		○		
地域特性健康論Ⅰ	1		○		
学校・産業保健	1		○		
公衆衛生看護学実習	5		○		
公衆衛生看護学活動論	3		○		
地域統計情報論	2		○		
健康教育論Ⅱ	1		○		
地域特性健康論Ⅱ	1		○		
公衆衛生看護管理論	1		○		
公衆衛生看護学概論	2	◎			
在宅看護論	3	◎			
在宅ケア実習	2	◎			
老年看護学					
老年看護学概論	1	◎			
老年看護学	3	◎			
老年看護学実習	3	◎			
共通					
緩和ケア	1	◎			
感染看護学	1	◎			
統合					
リサーチトレーニングⅠ	1	◎			
リサーチトレーニングⅡ	1	◎			
災害看護	1	◎			
看護技術の統合と医療安全	1	◎			
統合実習	2	◎			
合計		119			

備考 * 専門科目の選択科目から1単位以上を選択する。

・保健学科の授業科目・単位数（放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻）

放射線技術科学専攻

(1) 専門基礎科目

区分	授業科目	単位数	必修	選択	備考
保健医療系基礎科目（各専攻共通）	生体の構造と機能				
	人体構造学Ⅰ	2	◎		
	人体構造学Ⅱ	2	◎		
	生体機能学Ⅰ	2	◎		
	生体機能学Ⅱ	2	◎		
	生化学Ⅰ	2		○	
	生体防衛学	2		○	
	遺伝学	1		○	
	疾病と医学・医療				
	病原生物学Ⅰ	2		○	
	臨床薬理学	2		○	
	病理学Ⅰ	2	◎		
	保健学概論	2	◎		
	臨床医学総論Ⅰ	2	◎		
救急医学概論	1		○		
チーム医療演習	1	◎			
社・健・環・境					
医事法	1		○		
環境衛生学Ⅰ	2	◎			
保健衛生統計学	2		○		
医療外国語	2	◎			
保健医療系基礎科目（各専攻共通） 小計		32			
専門基礎科目（放射線技術科学専攻）	応用数学Ⅰ	2	◎		
	応用数学Ⅱ	2	◎		
	画像数学演習	1		○	
	基礎物理学	2	◎		
	放射線物理学Ⅰ	2	◎		
	放射線物理学Ⅱ	2	◎		
	放射線物理演習	1		○	
	放射化学	2	◎		
	放射化学実験	1	◎		
	放射線計測学Ⅰ	2	◎		
	放射線計測学Ⅱ	2	◎		
	放射線管理・計測学実験	1	◎		
	放射線生物学	2	◎		
	医用工学Ⅰ	2	◎		
医用工学Ⅱ	2	◎			
医療情報基礎演習	1	◎			
専門基礎科目（放射線技術科学専攻） 小計		27			
合計		59			

備考 * 保健医療系基礎科目（各専攻共通）の選択科目より2単位以上を選択する。
* 専門基礎科目（放射線技術科学専攻）の選択科目より1単位以上を選択する。

(2) 専門科目

区分	授業科目	単位数	必修	選択	備考	
診断画像技術学	X線機器工学	2	◎			
	CT検査技術学	2	◎			
	超音波検査技術学	2	◎			
	画像機器工学実験	1	◎			
	X線検査技術学Ⅰ	2	◎			
	X線検査技術学Ⅱ	2	◎			
	MR検査技術学	2	◎			
	臨床医学総論Ⅱ	2	◎			
	画像解剖学	2	◎			
	画像診断学Ⅰ	2	◎			
	画像診断学Ⅱ	2	◎			
	診断画像技術学演習	1		○		
	核医学検査	核医学機器工学	2	◎		
		核医学検査学	2	◎		
核医学診断学		2	◎			
核医学検査技術学演習		1		○		
放射線治療	放射線治療機器工学	2	◎			
	放射線治療技術学	2	◎			
	放射線腫瘍学	2	◎			
	放射線治療技術学演習	1		○		
医用画像情報	デジタル画像処理論	2	◎			
	デジタル画像処理実習	1	◎			
	医用画像情報学	2	◎			
	医用画像情報学実験	1	◎			
医用画像情報学演習	1		○			
放射線安全管理	放射線関係法規	2	◎			
	放射線安全管理学	2	◎			
医療安全	医療安全管理学	1	◎			
	臨床実習					
科目特別	撮影技術学実習	2	◎			
	臨床実習Ⅰ	1	◎			
	臨床実習Ⅱ	7	◎			
リサーチトレーニング(卒業研究)	4	◎				
合計		62				

備考 * 専門科目の選択科目から3単位以上を選択する。

検査技術科学専攻

(1) 専門基礎科目

区分	授業科目	単位数	必修	選択	備考
保健医療系基礎科目（各専攻共通）	生体の構造と機能				
	人体構造学Ⅰ	2	◎		
	人体構造学Ⅱ	2	◎		
	生体機能学Ⅰ	2	◎		
	生体機能学Ⅱ	2	◎		
	生化学Ⅰ	2	◎		
	生体防衛学	2	◎		
	遺伝学	1	◎		
	疾病と医学・医療				
	病原生物学Ⅰ	2	◎		
	臨床薬理学	2		○	
	病理学Ⅰ	2	◎		
	保健学概論	2	◎		
	臨床医学総論Ⅰ	2	◎		
救急医学概論	1	◎			
チーム医療演習	1	◎			
社・健・環・境					
医事法	1	◎			
環境衛生学Ⅰ	2	◎			
保健衛生統計学	2	◎			
医療外国語	2	◎			
保健医療系基礎科目（各専攻共通） 小計		32			
専門基礎科目（検査技術科学専攻）	環境衛生学Ⅱ	2	◎		
	環境衛生学実習	1	◎		
	国際保健衛生学	2		○	
	医療情報処理学	1	◎		
	医療工学	1	◎		
	医療工学実習	1	◎		
専門基礎科目（検査技術科学専攻） 小計		8			
合計		40			

備考 * 保健医療系基礎科目（各専攻共通）の選択科目と専門基礎科目（検査技術科学専攻）の選択科目より2単位以上を選択する。

(2) 専門科目

区分	授業科目	単位数	必修	選択	備考
専門科目	臨床病態学概論 I	2	◎		
	臨床病態学概論 II	2	◎		
	臨床医学特論	1		○	
	人体構造学実習	1	◎		
	病理学 II	2	◎		
	病理学実習	1	◎		
	病理検査学	2	◎		
	病理検査学実習	1	◎		
	病理検査学特論	1		○	
	血液検査学 I	2	◎		
	血液検査学 II	2	◎		
	血液検査学実習 I	1	◎		
	血液検査学実習 II	1	◎		
	血液検査学特論	1		○	
	生化学 II	2	◎		
	生化学実習	1	◎		
	臨床化学 I	1	◎		
	臨床化学 II	1	◎		
	臨床化学実習	1	◎		
	臨床化学特論	1		○	
	遺伝子検査学	1	◎		
	遺伝子検査学実習	1	◎		
	放射線同位元素検査学	1	◎		
	分子病態学	2	◎		
	分子生物学	2	◎		
	生命工学概論	1		○	
	免疫検査学 I	2	◎		
	免疫検査学 II	2	◎		
	免疫検査学実習	1	◎		
	免疫検査学特論	1		○	
	輸血検査学	2	◎		
	輸血検査学実習	1	◎		
	病原生物学 II	2	◎		
	病原生物学実習	1	◎		
	病原生物検査学	2	◎		
	病原生物検査学実習	1	◎		
	病原生物検査学特論	1		○	
	医動物学	2	◎		
	医動物学実習	1	◎		
	生体機能学実習	1	◎		
	生理機能検査学 I	1	◎		
	生理機能検査学 II	1	◎		
	生理機能検査学 III	1	◎		
	生理機能検査学実習	1	◎		
	生理機能検査学特論	1		○	
	画像検査学	1	◎		
	画像検査学実習	1	◎		
	医療工学特論	2	◎		
	臨床検査総論 I	1	◎		
	臨床検査総論 II	1	◎		
臨床検査総論実習	1	◎			
検査機器管理学	2	◎			
検査情報管理学	2	◎			
医療安全管理学	1	◎			
医療安全管理学実習	1	◎			
臨地実習	7	◎			
リサーチトレーニング	4	◎			
合計		84			

備考 * 専門科目の選択科目から5単位以上を選択する。

(出典：保健学科学生便覧)

(資料 A-1-2-7)

・平成 29 年度保健学科シラバスチェック結果

チェック項目		合計点	達成率 (%)
(1) 授業の目的		69	100
(2) 到達目標	目的とする能力	69	100
	学生を主体とした箇条書き	55	80
(3) 授業内容と事前・事後学習	授業テーマ	65	94
	内容概略	69	100

※29 年度調査対象抽出科目数 69 科目

(出典：平成 29 年度 医学部保健学科におけるシラバスチェックの実施報告書)

(資料 A-1-2-8)

「授業改善のためのアンケート」実施報告書 (抜粋)

Q9 大学の授業の単位は、授業時間の 2 倍の時間外学習を前提として、取得できることになっています。あなたは、この授業について 1 週あたり平均して、どの程度、授業時間外の学習（予習・復習、資料収集、文献講読、レポート作成など）をしましたか。

『1 時間未満』前学期 32.5%、後学期 35.3%、さらに、『全くしなかった』前学期 9.2%、後学期 9.1%と学習時間の不足が示唆された。2015 年度のアンケートでも同様の結果であり、検討が必要である。

(出典：平成 28 年度「授業改善のためのアンケート」実施報告書)

(資料 A-1-2-9)

・外国人留学生受入状況 (平成年 26 度～平成 29 年度は留学生受入なし。)

身分	専攻	国籍	受入期間
特別聴講学生	放射	韓国	2011. 10. 1～2012. 9. 30
特別聴講学生	放射	中国	2011. 10. 1～2012. 9. 30
特別聴講学生	放射	韓国	2012. 10. 1～2013. 9. 30
学部研究生	看護	韓国	2013. 10. 1～2014. 9. 30
特別聴講学生	放射	韓国	2013. 10. 1～2014. 9. 30

(出典：留学生名簿から抽出)

(資料 A-1-2-10)

・学位授与方針

3. 医学部保健学科の学位授与方針

学位：学士（看護学）保健学科看護学専攻

学士（保健学）保健学科放射線技術科学専攻

学士（保健学）保健学科検査技術科学専攻

【1】 学位授与の方針 (3 専攻共通)

医学部保健学科は、学士課程において、「命の尊さを深く認識するとともに、豊かな教養と人間性に裏付けられた倫理観および確かな専門知識と技術を基礎に、医療技術の進歩や情報化に即応して、チーム医療に対応できる医療人、ならびに社会、医療を取り巻く環境の変化に対応し、地域に根ざし、かつ国際的視野で健康の保持増進や生活の質向上、疾病の予防や環境問題に取り組むことので

きる医療人の育成」を目的としている。このことを踏まえ、各専攻が定める学習成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、医療従事者、教育・研究者として必要とする専門分野において所定の単位と資質を取得した者に学位を授与する

【2】 学習成果

看護学専攻

【豊かな教養】

- ・人間の成長発達や人間の心理学的現象について必要な知識を説明できる
- ・社会学や哲学を通し、人と環境との相互作用に関する知識を説明できる
- ・自分の課題や関心において、自発的に学習することができる

【確かな専門性】

- ・看護学のメタパラダイムである人間、環境、健康・保健、看護に関する理論を説明できる
- ・からだやこころの構造・機能、疾病に関する病態生理が説明できる
- ・看護実践において必要とされる知識と技術を説明、実施することができる

【創造的な知性】

- ・看護学における課題を設定し、解決することができる
- ・関心領域や社会的問題の事象に関し、討議することができる

【社会的な実践力】

- ・人との間で相互作用をし、相手のおかれている状況を理解し、説明できる
- ・看護以外の社会における現象に関心をもち、一市民として参加することができる

【グローバルな視野】

- ・国際的に必要とされる英語を用いて看護学に関する現象を話すことができる
- ・外国語運用能力を用い国際的な視野で看護学を構築するためのコミュニケーションが実施できる

【情報通信技術の活用力】

- ・課題に応じて情報処理技術を駆使し、目的に対する情報分析を行うことができる

【汎用的な知力】

- ・他分野の専門家と情報を交換し、自分の立場で意見を述べるすることができる
- ・自分の関心領域に関する文献、図書を検討し、理解し、要約して人に伝えることができる

放射線技術科学専攻

【豊かな教養】

- ・医療における役割と現状について説明することができる

【確かな専門性】

- ・放射線技術科学における診療機器類の原理を理解し、活用することができる
- ・放射線技術科学における画像検査技術と放射線治療技術を修得し、説明できる
- ・法規制にしたがった放射線の安全な取扱いと管理ができる
- ・撮影された画像と生体内部の臓器の関係を理解し、説明できる
- ・画像診断の過程を論理的に理解し、説明できる

【創造的な知性】

- ・放射線技術科学領域における課題を見出し、その解決法を見出すことができる
- ・スライドの作成から口頭による研究発表および論理的な討議を行うことができる
- ・研究成果を明晰な論理の筋道と説得力ある表現を用いて、論文としてまとめることができる

【社会的な実践力】

- ・患者に不安を与えないような接遇ができる

【グローバルな視野】

- ・医療技術に関する英語の文献を読解することができる

【情報通信技術の活用力】

- ・実験データの処理や統計的処理のためにコンピュータを利用することができる

【汎用的な知力】

- ・保健学科の他の専攻の学生や医療施設の医療技術者と、医療技術に関するコミュニケーションができる

検査技術科学専攻

【豊かな教養】

- ・社会の一員として幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と広い社会的視野を持つ

【確かな専門性】

- ・臨床検査技術科学の基本的理論・概念について説明することができる
- ・病気の診断治療や健康状態の把握に必要な医学的検査法に習熟している

【創造的な知性】

- ・臨床検査技術科学の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる
- ・課題に対する研究方法、解析技術等を理解し、柔軟な発想と論理的思考から仮説を検証できる

【社会的な実践力】

- ・文化・社会に関する一般的な理解と関心を持ち、医療従事者としての職業観、倫理観を培うことができる

【グローバルな視野】

- ・自然・生命・医学・医療に関する基本的な理解と広い視野を持っている
- ・英語の文献を読解するとともに、英語による簡単なプレゼンテーションを行うことができる

【情報通信技術の活用力】

- ・ITを利用し、情報の収集・分析や交換を行うことができる

【汎用的な知力】

- ・明晰な論理の筋道と説得力ある表現を用いて、情報や意見を伝えることができる

【3】カリキュラム編成方針（3専攻共通）

体系性：各分野の学問体系を基盤とし、国家資格取得に必要とする科目群で教育課程を編成している

段階性：基礎的な科目により幅広い知識を修得し、学年進行に沿って応用的・発展的ならびに実務的な科目を学習できるよう編成している

個別化（進路への対応）：各年次に各専攻分野を構成する専門的な授業科目を置き、将来の進路に則した科目履修を保証するように編成している

（出典：保健学科学生便覧）

（水準）

期待される水準を上回る。

（判断理由）

（医学科）医師国家試験の合格率は全国平均の水準である。また、学生の講義や実習における態度も向上しており、学生の学問的自由と自律的行動を尊重しつつ、医学生として必要不可欠な教育が提供されている。さらに、教育課程も教育の目的に照らして体系的に編成されている。

（保健学科）3専攻ともに、学生の講義や実習における態度は向上しており、このことが各種国家試験合格率、あるいは就職率の高さにつながっている。学生の学問的自由と自律的行動を尊重しつつ、保健学科の学生として必要不可欠な教育は提供されている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

(医学科) 医学科では全学的方針に準拠して、厳格で公正な成績評価を行った上で単位認定を行っている。教育内容の質は医学教育モデル・コア・カリキュラムを基本にした教育内容の確保、学生による授業評価アンケートによる授業改善、厳格な出欠席チェック、そして学生の科目習得度を適格に測定できる試験を行うことによって維持している。また、講義のみでなく、基礎医学では実験、臨床医学においてはチュートリアル、臨床実習、特別臨床実習においても教育達成度が十分に反映する形の単位認定を行っており、様々な側面から単位の実質化に配慮している。

卒業予定者については、卒業試験の結果について卒業判定会議にて学士(医学)を授与するに値するか厳正な基準の下、評価している。新卒者の医師国家試験合格率は年度によっては変動があるものの、これまでより上昇し95%程度となっている。(資料 A-2-1-1)

(資料 A-2-1-1)

医師国家試験合格者状況(新卒者)

年 度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
受験者数(人)	92	122	105
合格者数(人)	87	112	101
合格率(%)	94.6	91.8	96.2

(出典：医師国家試験合格状況資料)

(保健学科) 保健学科では、厳格で公正な成績評価を行い、学生の科目習得度と教育達成度を把握しながら、教育を提供している。講義・演習だけでなく、実習も「授業改善のためのアンケート」の対象としているが、保健学科が施す教育に対する学生の評価は全般的に良好である。(資料 A-2-1-2)(中期計画番号 11)

4年での修業率は、平成 26 年度で 87.7%、平成 29 年度で 90.6%と第 2 期中期目標期間よりも高い数値となっている。(資料 A-2-1-3) また、平成 26 年度から平成 29 年度までの国家試験の平均合格率は、看護師 99.7%、保健師 100%、助産師 98.1%、診療放射線技師 93.2%、臨床検査技師で 93.0%と、全国平均と比べても高い数値を残している。(資料 A-2-1-4)

(資料 A-2-1-2)

- ・授業改善のためのアンケート集計結果(抜粋)(保健学科)

Ⅱ. 2016 年度前学期・後学期の集計結果(学部で設けた質問項目(Q11~Q15))の分析

1. 平均値と選択肢ごとの割合

前学期と後学期に分け、各質問項目(Q11~Q15)の平均値を表 3 に示す。平均値について、Q11: 2.5 以上、Q12: 3.0 以上、Q13 から Q15: 2.5 以上に該当するものはなく、保健学科の実習に対する学生からの良好な評価がうかがえた。

Ⅲ. 自由記述について

自由記述に関しては、保健学科全体としての包括的な傾向をまとめることとした。講義に対する意見は、前後学期合わせ延べ 488 件の意見が寄せられた。

1. 肯定的意見

肯定的意見は、おおよそ 2 つに大別された。1 つは授業のわかりやすさを評価する意見であり、具体的内容としては、「授業のスピードが丁度良かった。」「丁寧な説明(専門用語の解説、説明内容の具体性・繰り返し)があり、わかりやすかった。」「授業時の板書や配布資料、スライド、動画、写真、イラスト、Moodle にアップされた資料等の補助

教材が分かりやすかった（わかりやすい説明文、統一したポイントの強調、括弧埋め形式、具体例の提示、テキストページの記載等）」ということであった。もう1つの肯定的意見は学びを深められたであり、「実践に役立つ具体的な知識を提供していただいた。」「前回の授業に対する質問への丁寧な解説が学びを深めた。」「自分達で調べて発表することにより理解を深められた。」等が含まれていた。

2. 改善を求める意見

改善を求める意見については、1つは授業のわかりにくさに対する意見で、具体的には、「板書の字が見にくく（小さい、ホワイトボードのペンが薄い）、消すのが早い。」「配布資料がわかりづらい（情報量が多すぎる、説明不足、テキストそのまま、テキストとの食い違い、ポイントが不明等）。」「授業時のスライドが見にくい（同系色の選択、文字が小さい、文字数が多い）。」「授業のスピードが速い。メモを取る時間を考慮して欲しい。」「内容が難しい」等であった。2つ目は授業体制に関する問題で、「教員間に指導内容や認識にズレがあった。」「他の授業のレポートや発表とも重なり、時間的余裕がなかった。」とする意見もあった。3つ目は要望として、「授業理解のためにスライドをMoodleにアップして欲しいが、Moodleにアップするスライドは、背景を白色にして欲しい（見やすさ、書き込みやすさ、インク消費の観点から）。」であった。

V. 総括

保健学科の授業に対するアンケート結果を分析した結果、大半の項目について学生からの良好な評価が確認でき、FD活動や教員各自の取り組みによる効果が示唆された。一方で、授業時間外学習（Q9）については検討が必要であり、授業方法の改善とともに時間外学習の促進を意識的に推し進めていくことが課題である。本実施報告書の内容を保健学系FDセミナーのテーマとし、保健学系教員への周知を図った。また、教育的に質の高い授業を目指し優れた取り組みをしている教員として、上記2名の教員を『保健学科奨励賞（授業改善）』として、保健学科会議において表彰した。

（出典：授業改善のためのアンケート）

（資料 A-2-1-3）

- 保健学科卒業生の修業年別人数および4年での修業率

年度（平成）	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
看護学専攻	69	60	59	58
放射線技術科学専攻	35	35	34	33
検査技術科学専攻	31	40	32	34
4年での修業人数(a)	135	135	125	125
年度全体の修業人数(b)	154	153	135	138
修業率(%) *	87.7	88.2	92.6	90.6

* 修業率は $a/b \times 100$ (%) で計算

* 小数点第二位以下四捨五入

（出典：卒業生の修業年数別人数一覧より集計）

（資料 A-2-1-4）

- 平成 26 年度から平成 29 年度までの国家試験合格状況（保健学科）

	年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
看護師	受験者数	70	69	66	67
	合格者数	69	69	66	67
	合格率(%)	98.6	100.0	100.0	100.0
	全国平均(%)	90.0	89.4	88.5	91.0

保健師	受験者数	74	28	19	20
	合格者数	74	28	19	20
	合格率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0
	全国平均(%)	99.4	89.8	90.8	81.4
助産師	受験者数	10	16	13	11
	合格者数	10	16	12	11
	合格率(%)	100.0	100.0	92.3	100.0
	全国平均(%)	99.9	99.8	93.0	98.7
診療放射線技師	受験者数	42	37	35	34
	合格者数	39	34	34	31
	合格率(%)	92.9	91.9	97.1	91.2
	全国平均(%)	73.8	78.8	85.4	75.3
臨床検査技師	受験者数	37	47	34	37
	合格者数	36	43	31	34
	合格率(%)	97.3	91.5	91.2	91.9
	全国平均(%)	82.1	76.4	78.7	79.3

(出典：国家試験合格者一覧)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 医学科の教育は、「医学教育モデル・コア・カリキュラム(教育内容ガイドライン)」に基づいており、効果的な教育内容となっている。その成果として、医師国家試験の合格率については全国平均の水準を維持している。

(保健学科) 保健学科が施す教育に対する学生の評価は全般的に良好であり、その成果が、4年での修業率のアップ、高い国家試験合格率、就職率の維持につながっている。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

(医学科) 医学科の学生は、卒業後全員が医師国家試験を受験し、合格すると医師となり、2年間の初期臨床研修を行うことになっている。初期臨床研修後は医学部附属病院やその他の病院に就職するコースと、大学院に進学するコースが用意されている。また就職しても社会人大学院生として研究活動を行うこともできる。

医学科の特徴として、医学生は全員医師となる単一職種を目指す集団であり、就職活動等はしていないので、卒業(修了)生や、研修先等の関係者からの意見聴取は組織的には実施していない。

(保健学科) 平成26年度から平成29年度までの卒業時の進路決定率は、看護学専攻で97.8%、放射線技術科学専攻で93.9%、検査技術科学専攻で91.7%と高い数値を示している(資料A-2-2-1)。詳細をみると、第2期中期目標期間に比べ大学院への進学率が増えているのが特徴である。放射線技術科学専攻と検査技術科学専攻では本学の保健学教育部への進学が最も多く、看護学専攻では特別別科への進学が多い(資料A-2-2-2)。一方、就職先としては、熊本県内、あるいは九州・沖縄地区の国公立や民間の病院、県市職員、企業が目立つ。

(資料 A-2-2-1)

平成 26 年度から平成 29 年度までの卒業生進路状況 (保健学科)

看護学専攻				
年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
卒業生	74	69	66	67
就職者	70	64	61	62
進学者	3	4	4	2

放射線技術科学専攻				
年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
卒業生	42	37	35	34
就職者	31	28	20	24
進学者	7	9	13	7

検査技術科学専攻				
年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
卒業生	38	47	34	37
就職者	28	35	23	25
進学者	6	10	8	8

(出典：卒業生の進路状況一覧より集計)

(資料 A-2-2-2)

・平成 29 年度卒業生就職先一覧 (保健学科)

看護学専攻(卒業生67名)			放射線技術科学専攻(卒業生34名)			検査技術科学専攻(卒業生37名)		
(就職)			(就職)			(就職)		
国公立、民間病院	熊本県	26	国公立、民間病院	熊本県	10	国公立、民間病院	熊本県	8
県市職員	熊本県	3						
国公立、民間病院	九州圏内	17	国公立、民間病院	九州圏内	8	国公立、民間病院	九州圏内	11
県市職員	九州圏内	6				県市職員	九州圏内	1
国公立、民間病院	九州圏外	9	国公立、民間病院	九州圏外	6	国公立、民間病院	九州圏外	4
県市職員	九州圏外	1				企業	九州圏外	1
その他		0	その他		3	その他	熊本県	4
就職小計		62	就職小計		27	就職小計		29
(進学)			(進学)			(進学)		
	熊本県	2		熊本県	7		熊本県	8
進学準備等		3	進学準備等			進学準備等		
進学小計		5	進学小計		7	進学小計		8

(出典：卒業生の進路状況一覧より集計)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 近年卒業し、医師国家試験に合格した卒業生は、ほぼ全員初期臨床研修を行っており、研修終了後は、附属病院をはじめ、県内外の医療機関で医師として活躍している。

(保健学科) 高い国家試験合格率、就職率を維持しており、卒業生の多くが県内外の保健医療機関で医療人として活躍している。また、大学院への進学者も増加している。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

高い質を維持している。

(医学科) 重要な質の変化あり。教育活動について、熊本大学医学部医学科では従来の教育組織の元、医学教育モデル・コア・カリキュラムの項目を網羅したカリキュラムを構築し、教育活動を実施している。また、基礎研究の基盤を早期から培い、基礎医学研究マイノリティを持った人材を輩出することを目的とした柴三郎プログラムを構築している。また、本邦において医学教育に求められている成果基盤型医学教育の導入に対応するため、平成26年度に熊本大学医学部医学科の教育成果を策定している。さらに診療参加型臨床実習の充実と拡充を達成するため、新カリキュラムの構築を行い、その中での臨床実習の充実拡充を図っている。

以上から教育活動の状況についての質の向上度は、改善、向上していると判断する。

(保健学科) 保健学科のカリキュラムは、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の各分野の学問体系を基盤とし、看護師・保健師・助産師・診療放射線技師・臨床検査技師の国家資格取得に向けた科目群で構成されている。総合医科学の知識を身に付けた、質の高い医療人を育成するために、専門基礎科目の中に3専攻共通の保健医療系基礎科目を設けており、専門科目としての「3専攻合同チーム医療演習」の充実につなげている。また、1年次から教養教育、専門教育を並行して実施し、early medical exposure を実現させている。さらに、臨床実習では、医療現場での実践能力の育成に取り組んでいる。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

改善、向上している。

(医学科) 教育成果について、学生の評価は厳格な基準のもと、進級や卒業を判定している。卒業後の国家試験合格率についても、数年前はやや低下傾向を示したが、平成29年度卒業生の国家試験合格率は96.2%と高水準を達成できた。本学卒業した国家試験合格者はすべて初期臨床研修を行っている。

(保健学科) 厳格で一貫した基準のもと、進級や卒業を判定している。4年での修業率のアップ、高い国家試験合格率、就職率の維持、さらには大学院への進学率のアップが示すように、現状の保健学科の教育は、高い質を維持していると考えている。

Ⅲ 社会貢献の領域に関する自己評価書

1. 社会貢献の目的と特徴

(医学科) 本学の地域社会との連携に係る基本方針(資料 C-1-1-1)に則り、医学科では、社会とくに地域社会から期待される医師・医学者を育成することを目的として教育活動を行っている。また、地域の教育および文化の向上・発展や多様な分野における人材育成などに寄与することを目的として、学生以外の社会人に対して授業開放を実施している。さらに、地域の学校教育へ貢献し、地域社会の若手人材、とくに将来、医療や医学・生命科学分野で活躍する人材を育成することを目的として、高大連携事業の推進、中・高校生に対する学内施設開放、柴三郎プログラムによる中高生の医学・生命科学研究の指導や教育などを行っている。(資料 C-1-1-2)

(資料 C-1-1-1)

- ・熊本大学の地域社会との連携に係る基本方針(抜粋)

熊本大学の地域社会との連携に係る基本方針

平成25年 1月17日
学 長 裁 定

熊本大学は、地域社会からの要請を的確に把握し、研究成果の公開、人的交流、諸施設の開放等を通して、産業創成、地域経済振興、教育及び文化の向上、医療・福祉の増進等に積極的に貢献するとともに、教育面における社会サービスの充実を図り、地域に開かれた大学としての役割を果たす。

大学から地域社会への教育研究成果の還元という一方向だけでなく、地域社会との積極的な連携を通して双方向の活動を推進し、地域再生の核となる大学づくりのため、地域社会との連携に係る基本方針を次のとおり定める。

(出典：熊本大学 Web サイト)

(資料 C-1-1-2)

- ・柴三郎プログラム概要

<プログラム概要>

かつて本校は、“基礎研究医学部”と喻えられるほど最先端の基礎医学研究成果を発信するとともに、基礎医学研究者の育成に努め、多くの基礎研究医を輩出してまいりました。しかし、卒後臨床研修の義務化後、本学医学教育部・博士課程への医学科卒の入学人数は減少傾向にあり、同様に基礎医学系分野で学位を取得する大学院生も減少傾向にあります。この問題は本校だけでなく全国の医学部が同様の問題を抱えています。

本プログラムは、基礎研究医を目指す人材を育成することを目的としたプログラムです。高校生の時から医学・生命科学研究に興味を持つ人材を発掘・育成し(柴三郎 Jr.の発掘)、その後学部時代(プレ柴三郎プログラム)から大学院修了(柴三郎プログラム)までシームレスに研究ができる環境を準備し、研究の指導・支援を実践します。本プログラムの名前の由来となりました北里柴三郎博士のような基礎研究医を育成することを目標としています。

柴三郎プログラム

博士課程

キャリアパス

- ・海外留学(支援)
- ・テニュアトラック教員
- ・臨床研究医師
- ・医薬品医療機器総合機構、厚労省など行政

高校時代から医学研究を体験
・研究場所、設備の提供

大学院の単位を取得
・e-learningで受講可能
・様々な研究支援(学会発表等)

すべての熊大病院卒後臨床研修プログラムが選択可能
・すべての参加病院で研修可能

卒後研修と大学院を同時に
・さらに博士3年で修了も可能

(出典：柴三郎プログラムパンフレット)

(保健学科)「熊本大学の地域社会との連携に係る基本方針(平成25年1月17日学長裁定)」に基づき、医療に対する地域社会からの要請を的確に把握し、看護学、検査技術科学、放射線技術科学分野における研究成果の公開や人的交流を通して、質の高い医療の提供と発展に貢献すること、また、これらに貢献できる医療専門職者・教育者・研究者の育成を目的としている。

保健学科の特色を生かし、以下の取り組みを通して、地域に開かれた大学としての役割を果たす。(資料C-1-1-3)

(資料C-1-1-3)

・保健学科としての役割

1. 「地域社会との組織的な連携の強化」として、高等教育コンソーシアム熊本の活動等への積極的な協力、熊本県内の地方自治体、医療機関、企業との連携を推進することにより地域医療並びに医療技術の高度化と充実・発展に貢献する。
2. 「地域社会の課題解決への貢献」として、地方自治体等の審議会や委員会への参画、地域社会や国内外の研究機関等と連携した看護ケアモデルの開発等を通して、保健医療福祉における課題の解決に向けて貢献する。
3. 「大学の生涯学習機能の強化」として、医療技術者または一般を対象とした公開講座、授業開放、地方自治体や様々な団体と連携した講演会・研修等を提供することにより、最新の専門知識の提供と高度医療専門職者・教育者・研究者の育成に寄与する。
4. 「産学連携・産業振興への貢献」として、地域の医療機関・薬学並びに工学分野の企業との連携による診断・検査・治療に関する共同研究を積極的に推進することによって、医療技術の向上に寄与する。

(出典：熊本大学の地域社会との連携に係る基本方針より一部抜粋)

[想定する関係者とその期待]

(医学科) 社会貢献の関係者とその期待は、以下のとおりである。

① 社会から期待される医師・医学者を育成することを目的とした教育活動

国民、地域社会の人々、自治体および地域の医療機関が主な関係者である。国民の健康と福祉の増進に貢献すること、地域医療を支えること、離島・僻地医療に従事することなどが期待されている。

② 地域の教育および人材育成に寄与することを目的とした授業開放や社会貢献活動

想定する関係者は、地域社会の人々である。地域社会の人々が、学生と一緒に勉強することで生涯学習意欲の刺激につながったり、生命科学の専門的な教養を深めたりすることが期待されている。

③ 地域の学校教育への貢献を目的とした活動

想定する関係者は、地域の中学・高校生とその保護者、ならびに中学・高校教育関係者。中学・高校生の医学・生命科学に対する知的好奇心を刺激し、学習への意欲を高めることが期待されている。また中学・高校生の進路決定に役立てることが期待されている。

(保健学科) 保健学科で想定される関係者としては、本学科の卒業生を含む看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師の国家資格取得者、医療を受ける患者及びその家族、地域住民、保健医療福祉関係者、などが挙げられる。

本学科の卒業生を含む看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師等の国家資格取得者からは、医学・医療の発展に伴う新たな情報の提供や技術の開発が期待されている。

医療を受ける患者及びその家族、地域住民、保健医療福祉関係者からは、質の高い医療の提供に向けた医療技術の開発や地域住民への医療・医学・健康に関する教育、地域における保健医療福祉の課題を解決するためのケアモデルの構築が期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

(医学科) 柴三郎プログラムは、本学独自の教育プログラムであり、中・高校～大学～大学院まで一貫して医学・生命科学研究の実践と指導により、将来我が国の医学・生命科学研究を担う研究者(医師)を養成することを目的とする。本プログラムを通じて、地域の中学・高校生に医学ならびに生命科学研究を放課後や休日に実践させ、研究指導を行っている。文部科学省が取り組んでいるスーパーサイエンスハイスクール(SSH)やサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SSP)プログラムと比べて、より深く、長時間研究に取り組むことができる特色がある。また、医学部の各研究室に配属し、研究をマンツーマンで指導していることに加えて、その研究成果を学会や論文発表することも指導し、積極的に成果発表することを推進している。参加した高校生からの評価も良好である。(資料 C-1-1-4) このような本プログラムの取り組みは、他に類を見ない社会貢献活動である。

また、高校生がより医学・生命科学研究に興味をもつよう「ワクワク研究室訪問」を実施し、平成 28 年度は 5 人、平成 29 年度は 2 人を各研究室で受け入れ社会貢献活動を実施している。(資料 C-1-1-5)

さらに、医学科の学生に対しては、社会から期待される医師・医学者を育成すること目的とした教育活動を実践する意味で、地域医療現場でのニーズを知り、将来地域医療で働く人材を育成するために「早期臨床体験実習」を拡充し、将来の地域医療の現場で活躍できる人材の育成に努めている。

(資料 C-1-1-4)

★★★体験者からご意見・アドバイス★★★

新聞で読んで興味を持ち、参加しました。参加してまだ間もないですが、みなさんとても優しく、質問にも丁寧に答えて頂いております。普段の学校生活では出来ないような実験が出来たり、様々な実験器具に触れたりと貴重な体験ができ、とても楽しいです。

文徳高校 1 年 K.Y.

大学の先生や大学院生などから、教えて頂いています。日頃、教科書で学ぶような「平面的な知識や情報」が立体的なものになり、驚くことや感動することがたくさんで、とても面白いです。生物に興味のある高校生には魅力的な活動です。

真和高校 2 年 M.K.

肝臓ガンの研究をしています。最初は、勉強とのバランスをとるのが難しいです。でも、研究室に通っているからこそ目標がはっきりして、それが原動力になって、今までよりも自宅学習の時間も増えました。

真和高校 1 年 Y.M.

(出典：柴三郎プログラムパンフレット)

(資料 C-1-1-5)

・ワクワク研究室訪問

	受入人数	受入分野
平成 28 年度	5 人	放射線診断学分野、麻酔科学分野、産科婦人科学分野
平成 29 年度	2 人	損傷修復学分野 (発生医学研究所に依頼)

(出典：熊本大学データ集等)

(保健学科) 外部資金を確保し、自治体、国内外の研究機関・医療機関、医療技術者養成機関と連携した事業の展開を行うことで、医療技術の開発に貢献している。また、公開講

座、授業開放などを通して地域住民の健康指導に貢献するとともに、地方自治体等の審議会、委員会への参画や、国内外の研究機関等との連携を通しての看護ケアモデルの開発に貢献している。

【改善を要する点】

(医学科) 地域の人々に対して、公開授業として授業の開放を行っているが、提供している授業数が十分かどうかのニーズをくみ取れていない。また、地域の人々が聴講を希望している授業の調査を行っておらず、本医学科からの一方向性の提供に留まっている。地域貢献活動を学内外へアピールする方法を新たにとる必要がある。

(保健学科) 授業開放を行い、地域住民への医療・医学・健康に関する教育を行っているが、提供している授業数はまだ少ない。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 目的に照らして、社会貢献活動及び地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 社会貢献活動及び地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表周知されているか。

(観点到る状況)

(医学科) 社会貢献及び地域貢献活動の目標は、教育および文化の向上・発展や多様な分野における人材育成などに寄与すること、ならびに地域の学校教育へ貢献し、地域社会の若手人材、とくに将来、医療、医学・生命科学分野で活躍する人材を育成することである。本目標を達成するために、まず、高大連携事業、中・高校生に対する学内施設開放、柴三郎プログラムによる中高生の医学・生命科学研究の指導や教育を計画した。さらに、医学科教育・教務委員会ならびに医学科会議が中心となり、医療と社会(資料 C-1-1-6)、早期臨床体験実習(資料 C-1-1-7)などを計画した。また、公開講義を実施すると共に、本学が実施する高校生のためのワクワク連続講義を担当した。(資料 C-1-1-8)(中期計画番号 33)

これらの計画は、熊本大学 Web サイトなどで公表し、オープンキャンパスに出席した高校生等に対しても説明した。また、これらの活動を、適宜パンフレットやチラシを作成し、地域住民や中・高校生に配布し、公表・周知に努めた。さらに、地域の中学校、高等学校に出向き、柴三郎プログラムや授業開放などの医学科が行っている地域貢献活動について説明し、参加を促している。(中期計画番号 33)

(資料 C-1-1-6)

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
	2018前期	医学部(20076)	4	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
医療と社会Ⅰ (H24,25入用) (医療と社会)			古川 昇, 加藤 貴彦, 西谷陽子, 松下 正輝		
学修成果とその割合					
豊かな教養・・・20% 確かな専門性・・・20% 創造的な知性・・・10% 社会的な実践力・・・20% グローバルな視野・・・20% 汎用的な知力・・・10%					
授業の形態	講義				
授業の方法	対面授業、複数の教官によるオムニバス形式				
授業の目的	医事法制や医療行政、医療安全、災害医療、行動科学、臨床心理学、医療人類学などを通して、社会学的・行動科学的側面から医療や健康に関する問題を理解し、問題解決に必要な科学的根拠について探究することができるようになる。また、患者とその家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握し、そのニーズに応えるためのコミュニケーションの能力について学ぶことを目的とする。				
到達目標	<p>熊本大学医学部医学科教育成果において、以下の項目についてそれぞれのレベル段階での能力を獲得することを到達目標とする(熊本大学医学部医学科教育成果および講義実習対応表参照)。</p> <p>レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3)、C. 自己研鑽とプロフェッショナルリズム (項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目3)、G. 地域医療と社会貢献 (項目3, 4)</p> <p>レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: A. 豊かな人間性 (項目4, 5)、B. 基本的診断能力 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 14)、C. 自己研鑽とプロフェッショナルリズム (項目1, 2, 3)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)、E. 医学研究 (項目1, 2, 3, 4, 5)、F. 国際的視野 (項目2, 4)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 5, 6)</p> <p>さらに平成28年度改訂版医学教育モデルコアカリキュラムの「B-4 医療に関連のある社会科学領域」の学修目標、特に以下の目標が該当する。</p> <p>医療人類学や医療社会学等の行動科学・社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる。</p> <p>病氣、健康、医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。</p> <p>自分が所属する文化を相対化できる。</p> <p>人々の暮らしの現場において病氣、健康がどのようにとらえられているかを説明できる。</p> <p>人の言動の意味をその人の人生や社会関係の文脈の中で説明することができる。</p> <p>文化・ジェンダーと医療の関係を考えることができる。</p> <p>国際保健・医療協力の現場における文化的な摩擦について、文脈に応じた課題を設定して解決案を提案できる。</p> <p>社会をシステムとして捉えることができる。</p>				
授業の概要	行動科学、社会医学および医療倫理学を科学的知見の進歩に基づき解説し、現在、および将来の社会において医療が求められることを考察させる。医事法制については医師法など基本的な法律と医療裁判の現状について学ぶ。また医療行政の現状について学ぶ。臨床心理学については基本的な心理臨床や臨床心理学の実際、コミュニケーション技法について学ぶ。医療と社会としては災害医療、医療安全、喫煙行動について学ぶ。また、社会医学として社会的少数集団(発達障害や性的マイノリティー)や医療人類学を学ぶ。これらの講義を通して、行動科学の知見や我が国の医療制度を適切に活用し、社会および医療チームの一員として医師の役割を果たし、患者中心の医療を実践するために必要な知識を深める。そして、問題解決のためのコミュニケーション能力や患者の人権を尊重した臨床的態度に関する知識を獲得する。				

(出典：熊本大学 Web サイト)

(資料 C-1-1-7)

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
MME1-030-62-0	2018通年	医学部(20026)	3	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
早期臨床体験実習Ⅲ (H27以降入用) (早期臨床体験実習Ⅲ)			谷口 純一, 松井 邦彦, 古川 昇, 高柳 宏史		
学修成果とその割合					
豊かな教養・・・5% 確かな専門性・・・30% 創造的な知性・・・10% 社会的な実践力・・・30% グローバルな視野・・・5% 情報通信技術の活用力・・・10% 汎用的な知力・・・10%					
授業の形態	実習				
授業の方法	学外実習施設における実習				
授業の目的	この早期臨床体験実習3 (Early Clinical Exposure 3, ECE3)は医学部医学科3年次に課す必修科目の一つである。医学科学生にとって、医療という人の命に係わる職業に携わるものとしての職業的使命感、特に患者の心を理解する豊かな人間性を育むことは極めて重要である。1年次には早期臨床体験実習1として医療・保健・福祉の現場で臨場体験を行うことによって、患者や住民の側から医療・福祉をみる体験を積み、患者と接する態度を学んだ。早期臨床体験実習2では、熊本大学医学部附属病院において臨床体験を行うことにより、医学を学ぶためのモチベーションと患者と接する態度の向上の更なる獲得はもとより、先進医療の現場における診療体制の実際を見学・体験し、医師・スタッフ・患者とのチーム医療のあり方の理解を深めた。早期臨床体験実習3では、熊本県における地域医療の現場を更に深く知り、臨床で求められるものとは何か、その為に今後何をどう学ぶかを考えてもらうこと、および臨床医学への関心と学習意欲を持ってもらう事を目的とする。				
到達目標	<p>早期臨床体験実習では、熊本大学医学部医学科教育成果において、以下の項目についてそれぞれのレベル段階での能力を獲得することを到達目標とする。</p> <p>レベルB(模擬診療や研究体験で実践できる、計画立案できる)の段階: A. 豊かな人間性 (項目1, 2, 3, 4, 5)、B. 基本的診療能力 (項目10)、C. 自己研鑽とプロフェッショナルリズム (項目6, 7, 8)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目1, 2, 3)</p> <p>レベルC(基盤となる技能・態度の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目5, 6)、C. 自己研鑽とプロフェッショナルリズム (項目1, 2, 3, 4, 5)、D. チーム医療と信頼される医療の実践 (項目4, 5, 6, 7, 8)、F. 国際的視野 (項目2, 3)、G. 地域医療と社会貢献 (項目1, 2, 3, 4, 6)</p> <p>レベルD(基盤となる知識の修得)の段階: B. 基本的診療能力 (項目1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14)</p> <p>特にECE3では、A、C、Dについては、より深く観察・経験・考察し能力の獲得に努める。FとGについては、地域医療の現場での体験を通してさらなる知識を獲得し、以て深い理解となるように努める。</p>				
授業の概要	日時：平成30年12月3日～12月7日。場所：熊本大学医学部の学外実習施設。内容：学生を各施設に配属し、各施設が準備した実習スケジュールに従い、体験実習を行う。配属する施設は、学生の希望と施設の許容人数に従い振り分けられる。事前にオリエンテーションを行う。実習中はログブックにて実習記録を作成し振り返りを行う。一週間の実習終了後、個人毎にレポートを提出する。レポートの内容は配属された施設毎の実習内容と考察・感想、および実習全体を通しての感想など。				

(出典：熊本大学 Web サイト)

(資料 C-1-1-8)

熊本大学 高大連携推進プロジェクト

高校生のための熊大

ワクワク連続講義

《平成30年度夏季プログラム》

8月8日(水)	1	1限 10:20-11:50	日比 泰造
	2	2限 12:50-14:20	安村 明
	3	3限 14:30-16:00	首藤 剛
8月9日(木)	4	1限 10:20-11:50	畑 裕之
	5	2限 12:50-14:20	長谷川 麻子
	6	3限 14:30-16:00	田代 浩徳

開催場所：熊本大学黒髪北キャンパス全学教育棟 受講対象：高校生および高校教諭等

(出典：熊本大学 Web サイト)

(保健学科) 国内外の研究機関や産学官連携の強化を進め、教育研究の成果を社会へ還元するという基本的な考え方を全教員が共有し、その実現に向けて積極的に取り組んでいる。大学の基本計画による活動は大学の Web サイトで、また保健学科の教育・研究・社会貢献活動に関する内容は保健学科 Web サイトや生命科学研究部概要において、それぞれ公表、周知している。(資料 C-1-1-9) また、教育理念・目標などをオープンキャンパスに出席した高校生等に対して説明している。(資料 C-1-1-10)

(資料 C-1-1-9)
 ・ 授業計画 (抜粋)

熊本大学シラバス(授業計画)		1/2 ページ	
<p>熊本大学シラバス (授業計画)</p> <p style="text-align: right;">検索画面へ 1つ戻る</p>			
●基本情報			
授業科目名	(日) (英)	医療と社会I Sociomedical Sciences I	
時間割コード	20075	開講年次	4年
学期	通年	曜日・時限	他
講義題目			
担当教員			
科目コード	4210200060	科目分類	専門基礎科目II
選択/必修	必修	単位数	1
●詳細情報			
授業形態	主として講義形式：それぞれの講義担当者が、設定されたテーマについて、自身の実践活動の経験を中心に紹介する。		
授業の目標	<p>一般学習目標G10(General Instruction Objective) 社会システムにおける地域保健・医療・福祉活動の位置づけを、関連する業務を担当する専門家/担当者の講義を通して理解する。本科目は、環境保健医学分野と公衆衛生・医療科学分野が、以下の趣旨で実施する。</p> <p>○環境保健医学：地域保健の理念と技術とそれがいかに現場に应用施行されているかを、とくに保健活動と環境保全活動の連携という視点から、実践事例を通して理解し、医師としておよび地域住民として、地域保健実践活動および地域づくりに主体的に参加することのできるための手がかりを得る。</p> <p>○公衆衛生・医療科学：社会システムの中で、保健・医療・福祉サービスに携わる医師として、最適な保健・医療・福祉サービスを実施するための現状分析、問題解決の方針決定、具体的実行計画の立案および評価について基本的な考え方を理解する。さらに、保健・医療・福祉サービス組織の中で医師としてリーダーシップを発揮する際に必要な知識を習得する。</p>		
授業の内容	<p>個別学習目標SB0(Specific Behaviored Objective) ○環境保健医学 その地域にねづいた資源を活用した新しいかたちの地域づくりのありかたについて、それぞれの講師が自身の実践活動の経験を紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. みどりモデルを導入した地域歯科保健システム 2. 農的くらしと循環・共生型社会 3. 参加型地域づくりの展開 4. 水俣病・新しい地域学 ○公衆衛生・医療科学 国際社会における公衆衛生活動ならびに地域社会での活動について現場で活動している医師から講義を頂く。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 水俣病を考える 2. 大地震災害後の住民の健康を守るために 3. 動脈硬化性疾患の疫学調査 4. 日本の医療政策と地域医療 5. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の疫学調査 		
キーワード	ヘルスプロモーション、参加型住民活動、環境保全、循環・共生社会、水俣病、医療政策、地域医療、動脈硬化性疾患、COPD		
テキスト	とくになし(各担当教員が独自に資料を作成する) 推薦図書：NEW予防医学・公衆衛生 シンプル衛生公衆衛生学		
参考文献	授業時に適宜紹介する。		
評価方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価方法 2. 評価基準 <p>それぞれの時間ごとに設定された課題についてミニレポートを提出させ、それを得点化して評価する。</p>		
履修上の指導			
<p>http://syllabus.jimu.kumamoto-u.ac.jp/kusy_detail.php?nendo=2014&scd=42&jcd=20... 2014/09/29</p>			

(出典：熊本大学 Web サイト)

(資料 C-1-1-10)
 ・ 熊本大学大学院生命科学研究部憲章 (抜粋)

<p>基本目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究と教育 <ol style="list-style-type: none"> (1)～(2) 略 2. 社会貢献 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究活動によって得られた知的財産を社会に還元し、人類の健康と福祉の発展に寄与します。 (2) 医療・医薬科学領域での国内外における指導的人材の育成を図り、これらの人材を通じ社会の発展に寄与します。

(出典：熊本大学大学院生命科学研究部概要)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 地域社会から期待される医師・医学者を育成することを目的として定めており、医学科学生への地域での早期臨床体験実習や地域の高校生に対しての講義や研究室の訪問などを計画・実施している。その詳細については Web サイトなどを介して広く公開し、オープンキャンパス等で直接説明している。

(保健学科) 熊本大学の基本方針に沿って社会貢献がなされており、関係者からの期待に応える成果を挙げている。また、社会から期待される医療従事者を輩出することで、地域住民の期待に応えている。併せて、教育・研究・社会貢献活動については、大学並びに保健学科の Web サイトや生命科学研究部概要によって、きちんと公表、周知している。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

(医学科)

早期臨床体験実習などを実施し、地域の心身障害児施設、慢性疾患療養施設、老人保健施設などで実習を行い、患者や住民の側から医療・福祉をみる体験をさせることにより、社会に貢献する医師像の理解が深まるように努めた。(中期計画番号 31)

また、講義を地域の人々に対して公開し、さらに、高校生に対する熊大ワクワク連続講義を担当し、本学学生以外の社会人や高校生に対して教育を行った。柴三郎プログラムとしては、平成 24 年度以降にこれまで 90 名以上の高校生を研究室に受け入れ実習を行っている。(前掲資料 A-1-2-5) これらの取り組みと併せて、平成 27 年度や平成 29 年度にオープンキャンパスを実施し、教育理念・目標などについて説明を行った。(資料 C-1-2-1)

(資料 C-1-2-1)

オープンキャンパスの実施状況

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
オープンキャンパス参加者数	580 人	中止	860 人

(出典：熊本大学データ集)

(保健学科) 国内外の研究者との共同研究や、産学官連携の研究を通して得られた成果をもとに、地域の課題解決に向けた看護ケアモデルの構築や新たな画像診断技術の開発、遺伝性疾患に対する診断技術の考案、確立に取り組んでいる。地域社会との組織的な連携強化が図られたことを示す一つの判断材料として、本学科の教員が務める公的機関の審議員・委員会の委員数が増加傾向にあることが挙げられる。(資料 C-1-2-2) (中期計画番号 32)

さらに、地方自治体や関連機関との連携を図りながら、講演会や研修会を毎年継続的に実施している。その内容は、地域の問題解決につながるテーマや、最新の専門知識の提供など多岐にわたる。(資料 C-1-2-3) (資料 C-1-2-4) また、高大連携の観点から、高校生に看護学、診療放射線技術科学、臨床検査技術科学を理解して貰うための出前授業も行っている。(資料 C-1-2-5) (中期計画番号 33)

(資料 C-1-2-2)

・ 公的機関の審議員・委員会の委員数一覧（保健学科） ※延べ人数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
公的機関の審議員・委員会の委員	24	31	36	16
医療機関の審議員・委員会の委員	2	3	0	0

(出典：依頼文書綴りより集計)

(資料 C-1-2-3)

・ 授業開放開講数（保健学科）

平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
講座数	延べ開催回数	講座数	延べ開催回数	講座数	延べ開催回数	講座数	延べ開催回数
4	60	9	122	8	110	8	94

(出典：授業開放関係綴りより)

(資料 C-1-2-4)

・ 講演構成、セミナー・研修会講師（保健学科）

		平成 26 年度	平成 26 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
講演会の講師	公的機関 ※教育機関を含む	2	10	2	12
	医療機関	1	0	0	0
	その他	9	9	9	0
セミナー・研修会等の講師	公的機関 ※教育機関を含む	471	408	418	512
	医療機関	21	6	6	14
	その他	69	78	75	56

(出典：依頼文書綴りより集計)

(資料 C-1-2-5)

・ 出前授業実施回数一覧

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
19 (0)	22 (0)	12 (0)	9 (0)

※ () は、県外で内数

(出典：大学データ集)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 社会貢献活動は、授業計画書に具体的に明示した目標と計画に基づいて適切に実施しており、国民や自治体からの期待に応えている。

(保健学科) 目標と計画に基づいて適切に実施しており、地域住民や自治体からの期待に

応えている。

地方自治体や関連機関との連携による講習会・研修会については、単発に終わらず、継続的に取り組むことができている。その結果として、地域との連携がより深まり、単なる知識・技術の提供に留まらず、地域の問題解決につながる内容の提案もできている。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 毎年約 100 名の医学士を輩出し、輩出した医学士が医師や研究者として、国民や地域社会の人々の健康と福祉の増進に貢献している。

高校生のためのワクワク連続講義では、講義終了後の聴講生に対するアンケート調査で、ほぼ全員から満足であったとの回答を得た。講義を公開している授業開放においても参加者からは、概ね満足であるとの回答を得ている。また、柴三郎プログラムにおける地域貢献活動では、参加者全員から満足しているとの回答を得ており、その結果、参加希望の中・高校生が毎年増加している。(資料 C-1-3-1) また、外部評価委員から高い評価を得ている。

(資料 C-1-3-2) 毎年度実施しているオープンキャンパスの参加者から概ね満足であるとの回答を得ている。(資料 C-1-3-3)

(資料 C-1-3-1)

柴三郎プログラムアンケート結果

医学部医学科 4年 羽根 潤

大学入学前から基礎研究に興味があり、1年生の時から研究室に通って実験を行っていました。現在はプレ柴三郎プログラムに入り、eラーニングによる先取履修を自分のペースで進めています。5月には学会に参加し、ポスター発表という貴重な経験をする事が出来ました。基礎研究に関心を持っている学生にとって、学部生の時から研究に触れることのできる最適なプログラムだと思います。

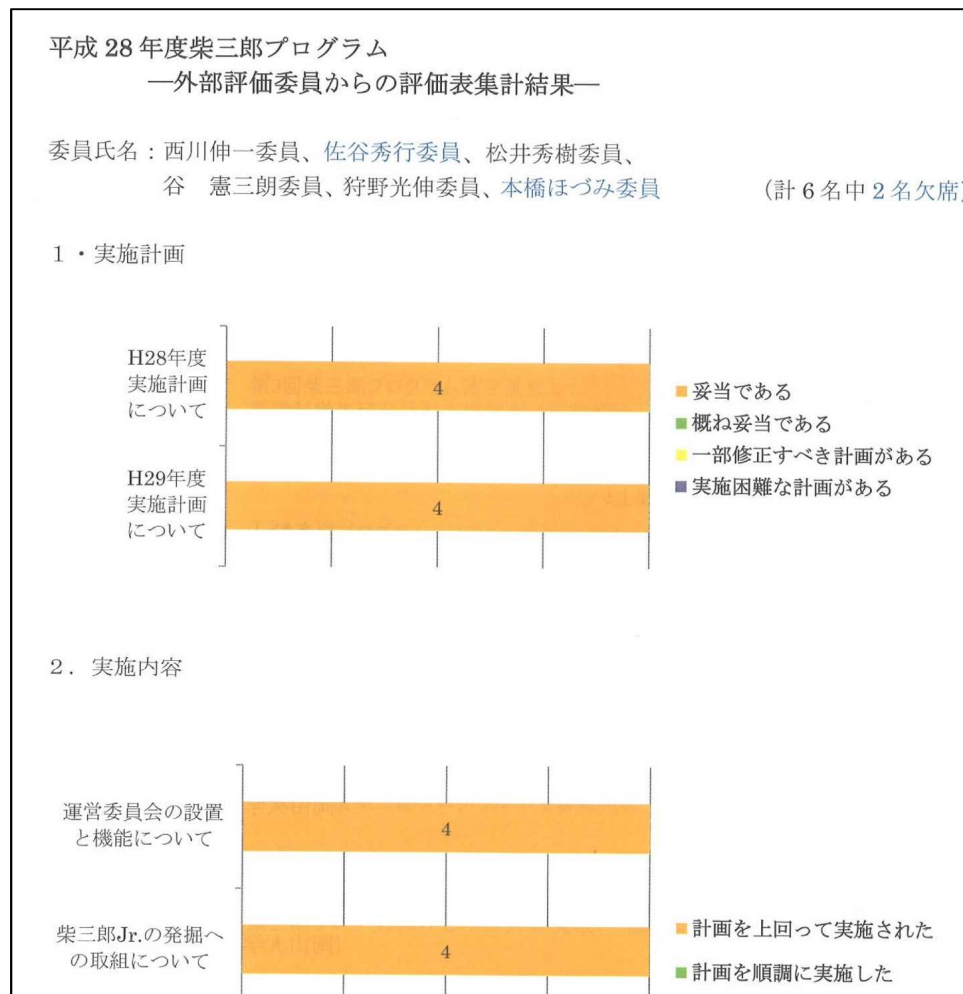
医学部医学科 4年 富田 真希

私は基礎演習で研究を体験してみて、そのまま続けて研究をしたいと思うようになり、プレ柴三郎プログラムに入りました。プレ柴三郎プログラムに入ってからには多くの実験をする機会を与えていただき、とても勉強になっています。また、熊本大学内外の研究機関の研究者と知り合うこともあり、いろんな分野の研究者の方からさまざまな応援やアドバイスをいただくこともあります。プレ柴三郎プログラムには学内での研究発表会もあり、学部生のうちから発表の場に慣れることができることも魅力的に感じています。ただし、勉強の合間を縫って実験するのは、想像以上に大変です。私も計画通りには研究が進んでいないのですが、先生方から指導

(出典：柴三郎プログラムアンケート)

(資料 C-1-3-2)

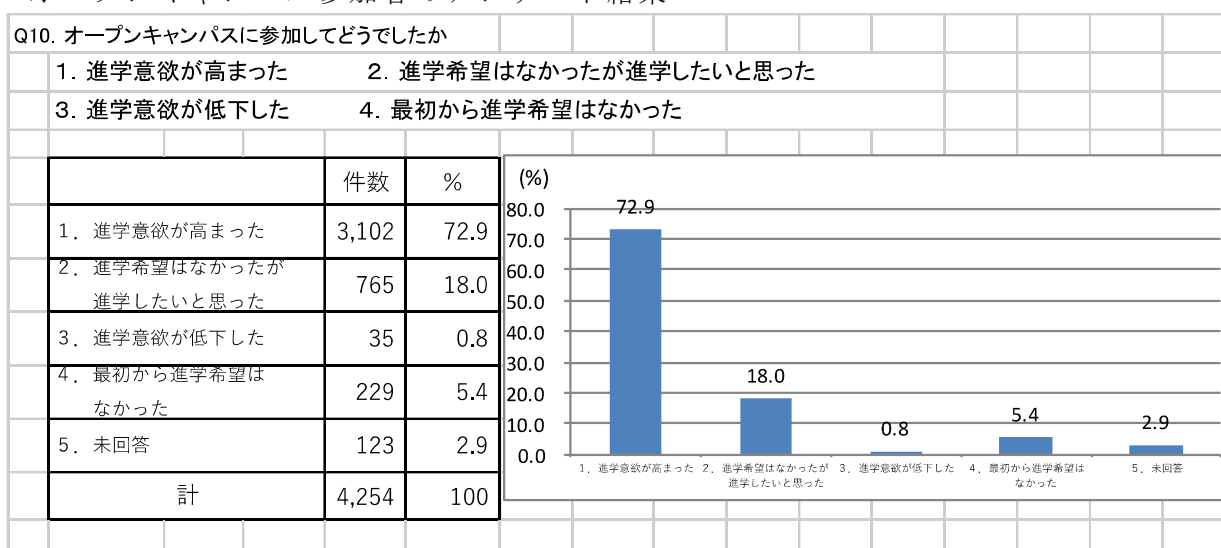
柴三郎プログラム外部評価委員による評価



(出典：柴三郎プログラム：熊本発 基礎研究医養成 事業成果報告所より抜粋)

(資料 C-1-3-3)

オープンキャンパス参加者のアンケート結果



【医学部医学科】	
	A L S コーナーがたのしかった。実際に電気ショックを使うのがたのしかった。 2件
	マップを配布して、自由にキャンパス内を見学できるようにしてほしい。
	臨床医になることが夢だったけど、医療研究にも少し興味がもてました。
	個人相談の場がほしい。
	学部の説明で、高校一年生でまだ受験に対して意識が目芽え始めたばかりだったので、カリキュラムや入学試験について、事細く説明していただけてとても良い機会になりました！A L S 迷惑をかけてしまい、すみませんでした（汗）とても良い経験でした！！ありがとうございました。
	とても楽しかったです！
	仕方ないと思うけど、中継があまりよくなかった。九大の薬学部のように、ホテルの大ホールで、したりするといいと思う。
	人数が思っていたよりも多かった。
	オープンキャンパス予約制にして下さい。東京からわざわざ来たのに、座ることでできず、クーラーも効いていない。ありえません。建物に入るのも時間かかるし、道の案内も少ししかない。私の学校は駅から10分もありませんが、学校まで先生方が立って下さってます。非常に残念です。期待していたのに。入試当日もこんな様子でしょうか。
	説明会後の場所案内をもっとわかりやすくしてほしいです。

（出典：オープンキャンパスアンケート結果）

（保健学科）社会との連携を深めるための取り組みとして、研究成果を熊本大学リポジトリや紀要に公表するとともに、授業開放や講演会、セミナー、公開講座、研修会、研究会を主催し、知的財産を活用した地域貢献を積極的に図っている。特に、授業開放数は、平成26年度の4件から、29年度には8件まで倍増している。（前掲資料C-1-2-3）また、教員へは、地域からの講演会やセミナー、公開講座、研修会での講師の依頼が年々増えている。特に、セミナー、研修会への講師依頼については、第2期中期目標期間に比べ約2倍となっており、平成29年度にはのべ500件を超えるに至っている。（前掲資料C-1-2-4）

受託研究費については、熊本県からの依頼が最も多く、平成26年度の4件から平成27年には8件にまで倍増した。（平成28年度、平成29年度の減少は、熊本地震の影響によるもの。）（資料C-1-3-4）（中期計画番号33）

地方自治体や関連機関との連携による講習会、研修会については、単発に終わらず、継続的に取り組むことができている。その結果として、地域との連携がより深まり、単なる知識・技術の提供に留まらず、地域の問題解決につながる内容の提案もできている。また、保健学科教員が講師を務める高大連携事業の講義や各種講演会、研修会への参加をきっかけに、保健学科への進学を決めた高校生や大学院保健学教育部への進学を決めた社会人も散見されるようになった。（中期計画番号32）

（資料C-1-3-4）

・科学研究費補助金・受託研究費の獲得状況（保健学科）

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
科学研究費補助金	22	37,960,000	27	39,035,000	31	37,066,000	31	36,790,000
受託研究費	4	3,213,000	8	8,885,000	2	1,600,000	2	0

（出典：生命科学研究部概要）

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 我々の社会貢献活動成果について、国民や自治体は高い満足度を示しており、期待に込んでいる。我々の地域貢献活動成果について、地域住民や地域の中学校・高等学校からこれまでにない取り組みであると高い評価を受けている。

柴三郎プログラムを実施することで、中学生ならびに高校生を対象に最先端医学研究を指導している。この活動は、新聞などで取り上げられ、地域だけでなく九州地区の住民や地域の中学校・高等学校に反響をよんでいる。

(保健学科) 保健学科の教員が地方自治体等の審議会や委員会に参画する機会、あるいは講演会、セミナー、研修会の講師を依頼される機会は着実に増えている。また、国内外の研究機関との共同研究数や受託研究費の獲得数、獲得額も増加傾向にある。

先に述べた各種地域貢献活動については、地域住民や地域の高等学校から、これまでにない有益な取り組みであると高い評価を受けている。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 授業担当教員に対して授業開放科目への積極的な参加を呼びかけ、授業開放科目を開設した。(改善計画) さらに、地域社会における実習を充実するために、新たに早期臨床体験実習 III を計画し、3年次の学生を熊本市内外の各病院診療所に1～数名配置し実習を実施した。(改善計画)(中期計画番号 31)

(保健学科) 現在のところ、社会貢献活動については改善の必要性はなく、引き続き継続して社会貢献に取り組んでいく。

地域貢献活動については、大学内、特に医学部附属病院との連携をより強化すべく、検討を進めている。また、地域貢献に関する取り組みを、よりわかりやすく学内外へ周知、広報するために、平成 28 年には保健学科の Web サイトを刷新した。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 地域社会のニーズの把握に努めるため早期臨床体験実習を拡充している。また、社会貢献活動の充実を図るために、授業解放や柴三郎プログラムを引き続き実施することで社会人への教育や、高校生の研究室への受け入れを行っている。

(保健学科) 熊本大学の基本方針に沿って社会貢献がなされており、関係者からの期待に応える成果を挙げていることから、改善の必要性はない。

地域貢献活動については、改善のための取り組みが功を奏し、保健学科から提供する授業数は年々増加し、受講者数も増えている。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目 大学の目的に照らして、社会貢献活動及び地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

大きく改善、向上している。

（医学科）地域社会のニーズを把握するため、新たに早期臨床体験実習 III を計画し、熊本市内外の病院と診療所に学生を配置し、実習終了後のアンケートにより、地域医療の現場での意見やニーズの集約を行った。これにより、本学医学科の学生が、地域医療の現場のニーズを知ることができ、今後の地域医療や社会に貢献できる人材の育成につながると期待される。また、授業担当教員への授業解放科目への積極的な参加を促し、授業の解放に努め、学生以外の社会人が医学の知識を学ぶことができる環境を提供している。

本学が実施する高校生のための熊大ワクワク連続講義を担当し、新たにワクワク研究室訪問にて高校生の受け入れを行い、医師や医学研究者を志す人材の育成に努めた。

（保健学科）社会貢献活動については、国内外の研究者や産学官連携による共同研究により、新たな看護ケアモデルや医療技術の開発に取り組んでいる。また、これらの研究の成果をもとに、保健学科の教員が地方自治体等主催の審議会や委員会に参画する機会が増え、その活動は県内外で高く評価されている。

地域貢献活動については、地方自治体、保健医療福祉機関、企業等と産学官連携による共同研究等を通して、地域の保健医療福祉機関や医療従事者との連携が深まってきており、その結果として、県内の自治体、保健医療福祉機関から講演会、研修会の講師を依頼される教員が増えている。

IV 国際化の領域に関する自己評価書

1. 国際化の目的と特徴

(医学科) 医学科では、アドミッションポリシーとして6項目で人材を求めているが、そのうち2項目で国際化の重要性が謳われている。すなわち、研究面では「科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人」、医療面では「社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人」である。平成26年に作成した熊本大学医学部医学科教育成果「F. 国際的視野」に記載するとおり、医学科学生が卒業時に「社会に対する幅広い視野を有し、本邦および国際社会における医療及び現状を理解する」を身につけることができるようなカリキュラムを策定している。

(保健学科) 保健学科では、海外研究・教育施設との情報交換や学術交流を推進できる能力、あるいは国際的に活動、貢献のできる医療人の育成を目指した教育を行っている。

[想定する関係者とその期待]

(医学科) 学士(医学)の学位授与に当たっても、教育成果として「社会に対する幅広い視野を有し、本邦および国際社会における医療及び現状を理解する」ことを達成すべく編成された教育課程を学修することを条件としている。医学科が想定する関係者は、在学生、外国人留学生、医療研究者・教育者であり、在学生及び外国人留学生に対して医療教育者が高度な医学教育を実施することによって、また、医療研究者が国際的な研究を行うことによって、社会へ還元することが期待される。

(保健学科) 想定する関係者は、本学科の在学生や本学で学ぶ外国人留学生、医療技術者(特に看護職、診療放射線技師、臨床検査技師)、医学・保健学の研究者・教育者である。これらの関係者への高度な教育、あるいはこれら関係者との共同研究を、その成果として社会に還元することが期待される。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

(医学科) 医学科のアドミッションポリシーでは、「科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人」、「社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人」を求めており、様々な媒体により受験生に有効に周知している。また、入学試験においては、平成28年度からは後期試験を廃止したことにより、全受験生が面接試験を受験するようになり、学力のみならず、医学部のアドミッションポリシーについての深い理解も有するようになったと考える。

これにより、国際的視野で医学を学ぼうとする学生が多くなっており、休業期間を利用した語学研修や学会発表への参加による海外渡航も年々増える傾向にある。また、基礎演習における海外研修を可能とし、海外の大学等とも学生交流・学術交流の協定締結も着実に増加している。

(保健学科) 保健学科の部局間交流協定校は第2期中期目標期間より1校増え、4大学となった。(資料D-1-1-1) 学生交流・学術交流を結んでいる韓国の高麗大学保健科学大学とは、教員・学生がお互いの大学を訪問し、教育・研究の交流を継続している。

また、学生には長期休暇を活用した語学研修プログラムへの参加、あるいは年に1回開催される本学所属の海外留学生との交流会への参加を推奨している。

(資料 D-1-1-1)

・部局間交流協定校（保健学科関係）

締結年	国	大学名	備考
平成 22 年	韓国	高麗大学校保健科学大学	学術交流 学生交流
平成 23 年	アメリカ	カリフォルニア大学 サンフランシスコ校看護大学院	学術交流
平成 24 年	アメリカ	サンフランシスコ大学看護大学院	学術交流
平成 28 年	タイ	ナレスアン大学医療保健学部	学術交流

(出典：生命科学研究部概要)

【改善を要する点】

(医学科) 医学教育分野別評価基準に則した新カリキュラムを構築・実施しているが、講義の過密化に伴い学生の自由に使うことの出来る休業期間が圧縮されており、自主的な海外への留学や国際交流を行う機会が減少している。今後、時期を工夫するなど学生の自主的な活動を支援できるカリキュラムを模索する必要がある。

(保健学科) 部局間交流協定に伴う学生交流によって、国際的に活躍しようとする意欲のある学生を支援するため、今後は留学が単位取得や国家試験合格への障壁とならないようなルール、カリキュラムを確立していく必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点到る状況)

(医学科) 医学科では、「科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる学生」、「社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ学生」、「グローバルな視野をもち、国際的に活躍する研究者をめざすことができる学生」を育成するために教育目標及び学位授与方針に定め、専攻毎に学生便覧などに掲載している。また、このアドミッションポリシーは、熊本大学案内「がんばれ受験生」、入学者選抜要項、学生募集要項などの冊子(資料 D-1-1-2)(資料 D-1-1-3)(資料 D-1-1-4)で周知するとともに、医学部 Web サイトにも公開している。

また、オープンキャンパス時には、各種資料を配布するとともに口頭でもアドミッションポリシーを紹介している。

平成 26 年には熊本大学医学部医学科教育成果を作成し、「F. 国際的視野」として、医学科学生が卒業時に「社会に対する幅広い視野を有し、本邦および国際社会における医療及び現状を理解する」を身につけることが出来るようなカリキュラムの策定を行っているが、この教育成果は、医学部 Web サイトに公開するのみならず、医学科学生と教員に配布される「授業計画書」にも掲載をし、周知徹底をしている。

(保健学科) 保健学科では、グローバルな視野を持ち、国際的保健医療活動に貢献できる学生を育成するための教育目標、学位授与方針を定め、学生便覧に明示している。(資料 D-1-1-5) (資料 D-1-1-6) また、保健医療系共通科目のうち「国際医療・保健活動論」を必修とし、学生が海外に目を向けるための努力もしている。

部局間交流協定校との交流や熊本大学への留学生との交流会の詳細については、熊本大学並びに保健学科の Web サイトや生命科学研究部概要等において周知している。

(資料 D-1-1-5)

・教育目標 (抜粋)

<p>【1】保健学科教育目標</p> <p>1) ~ 4) 略</p> <p>5) 幅広い社会的視野を持ち、国際的保健医療活動または地域に密着した保健医療活動に貢献できる医療人を育成する。</p> <p>6) 略</p> <p>【2】各専攻の教育目標</p> <p>(1) 看護学専攻の教育目標</p> <p>1) 人間の尊厳を軸とした倫理観と幅広い教養、ならびに国際的な視野を持った豊かな人間性を養う。</p> <p>2) ~ 5) 略</p> <p>(2) 放射線科学技術専攻の教育目標</p> <p>1) ~ 5) 略</p> <p>6) 放射線技術科学の知識を活かした保健医療活動を通して異文化コミュニケーションに積極的に参加し、国際貢献に寄与できる医療人を育成する。</p> <p>(3) 検査技術科学専攻の教育目標</p> <p>1) ~ 5) 略</p> <p>6) 国際的な活動 (国際感染症の予防、発展途上国の健康管理など) に参画できる人材を育成する。</p> <p>7) 略</p>
--

(出典：保健学科学生便覧)

(資料 D-1-1-6)

・学位授与方針 (抜粋)

<p>(看護学専攻)</p> <p>【グローバルな視野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的に必要とされる英語を用いて看護学に関する現象を話すことができる。 ・外国語運用能力を用い国際的な視野で看護学を構築するためのコミュニケーションが実施できる。 <p>(放射線技術科学専攻)</p> <p>【グローバルな視野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療技術に関する英語の文献を読解することができる。 <p>(検査技術科学専攻)</p> <p>【グローバルな視野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然・生命・医学・医療に関する基本的な理解と広い視野を持っている。 ・英語の文献を読解するとともに、英語による簡単なプレゼンテーションを行うことができる。

(出典：保健学科学生便覧)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 医学科では、明確な方針・教育成果に基づき、国際化に対する学生指導が行われている。また、学生便覧や Web サイトなどを通して関係者へ確実に周知している。

(保健学科) 保健学科では、明確な方針に基づき、国際化を強く意識した学生教育が行われている。また、これらの取り組みについては、学生便覧や Web サイトを通して、関係者に確実に周知している。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 第 2 学年において教養教育における理系英語のみならず、医学英語の科目を必修科目として開催し、医学に特化した英語語彙や文章の基礎を獲得させている。また、第 3 学年での「基礎演習」及び「医療と情報」において、英語論文の検索の仕方や実際に英語論文を通読することを学ぶ。医学科では、カリキュラムの関係で個人による中長期の留学は難しいため、実習や夏季休業中において、海外の学会への参加や発表する機会の提供について各分野等へ働きかけている。(資料 D-1-2-1)

また、中国山東大学とは長年わたる部局間交流協定を経て 2009 年大学間交流協定を締結し、平成 29 年度から山東大学の学生を毎年受け入れることを開始した。併せて、次年度に基礎演習期間中に 3 名の医学科学生を派遣し、国際交流を行う計画を行った。これを含め、平成 29 年度は次年度に向け、基礎演習の一環として、国立衛生研究所 (NIH)、ハーバード大学、ハイデルベルグ大学、シンガポール大学などで計 8 名の学生が研究を実施できるよう計画を行った。更に、毎年 1 名程度の学生が、交流協定校であるリーズ大学 (英国) やダラム大学 (英国) などへ 1 年間の留学を果たしている。

基礎演習において各研究室へ学生を少人数配属させており、各教室に所属する留学生との交流も実施している。

なお、外国人留学生については、医師養成という教育内容の特性上、受け入れが難しく、大学間及び部局間交流協定に基づく受け入れは実現していない。

また、研究面においても、国際共同研究を通して最先端の研究を行っている。(資料 D-1-2-2)

(資料 D-1-2-1)

・海外渡航状況 (医学科)

平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
語学研修・ 見学・実習	学会発表 ・参加	語学研修・ 見学・実習	学会発表 ・参加	語学研修・ 見学・実習	学会発表 ・参加
11	1	3	0	6	0

(出典：学生の海外渡航届け綴りより集計)

(資料 D-1-2-2)

・国際共同研究数一覧 (医学系)

年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
件数	148	181	155

(出典：熊本大学データ集)

(保健学科) 保健学科では、保健医療系共通科目のうち「国際医療・保健活動論」を必修とするとともに、長期休暇を活用した語学研修プログラムへの参加、あるいは年に1回開催される本学所属の海外留学生との交流会への参加も推奨している。(資料 D-1-2-3)

部局間交流協定を結んでいる韓国の高麗大学保健科学大学との間では、定期的に教員・学生同士の交流の場が設けられている。(前掲資料 D-1-1-1) 平成 29 年には、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) の日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」により高麗大学の大学生が来学し、放射線研究分野について、学生との相互交流を行った。

また、平成 30 年 1 月には、JST の同事業によりハノイ国家大学外国語大学附属外国語英才高等学校の高校生が来学し、大学の授業体験、大学病院見学、保健所訪問を行い、日本の医療についての理解を深めるとともに、大学生との相互交流を行った。(資料 D-1-2-4)

研究面においては、外国人研究者の受け入れも含め国際共同研究への熱が年々増しており、第 2 期中期目標期間と比べ、その件数は倍増している。(資料 D-1-2-5) (中期計画番号 40) 平成 30 年 2 月にはタイ王国・ナレスアン大学保健医療学部において、「第 2 回保健学系国際シンポジウム」を開催し、研究発表と情報交換を行った。(資料 D-1-2-6)

(資料 D-1-2-3)

・海外での学会参加・語学研修者数一覧 (保健学科)

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	学会発表・参加	語学研修	学会発表・参加	語学研修	学会発表・参加	語学研修	学会発表・参加	語学研修
学部	13	1	3	17	10	10	7	3

(出典：学生の海外渡航届け綴りより集計)

(資料 D-1-2-4)

・「さくらサイエンスプラン」による交流

HOME ▶ 大学院保健学教育部 ▶ お知らせ ▶ JST「さくらサイエンスプラン」で高麗大学校(韓国)の学生が保健学科を...

◆ 大学院保健学教育部

◆ 保健学教育部長メッセージ

◆ アドミッションポリシー

◆ 保健学教育部の概要

◆ 課程の紹介

◆ 分野一覧

◆ 入試のご案内

◆ 大学院生へ

◆ 学事誌

◆ 各種お知らせ

お知らせ

JST「さくらサイエンスプラン」で高麗大学校(韓国)の学生が保健学科を訪問

2017.09.01

平成29年8月21日(月)～28日(月)、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」により医学部保健学科に招へいされた高麗大学校の一行11人が来学し、放射線研究分野の測定や実験などを通じた相互交流を行いました。高麗大学校とは2010年に部局間交流協定を締結し、これまでも交流を行ってまいりました。今回の来学を機に、学生間及び大学間の親交をさらに深め、次なる学生交流・研究交流へと発展させる予定です。

(出典：保健学科 Web サイト)

(資料 D-1-2-5)

- ・国際共同研究数一覧（保健学科）

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
6	6	7	9

(出典：国際交流状況調査より抽出)

(資料 D-1-2-6)

- ・「第 2 回保健学系国際シンポジウム」開催

HOME ▶ 大学院保健学教育部 ▶ お知らせ ▶ ナレスアン大学保健医療学部との「第2回保健学系国際シンポジウム」を開催...

▶ 大学院保健学教育部

▶ 保健学教育部長メッセージ

▶ アドミッションポリシー

▶ 保健学教育部の概要

▶ 課程の紹介

▶ 分野一覧

▶ 入試のご案内

▶ 大学院生へ

▶ 学事誌

▶ 各種お知らせ

お知らせ

ナレスアン大学保健医療学部との「第2回保健学系国際シンポジウム」を開催。 (2018/2/15)

2018.02.23

平成30年2月15日にタイ王国・ナレスアン大学保健医療学部において、「第2回保健学系国際シンポジウム」を開催しました。

交流協定校のナレスアン大学保健医療学部は、検査技術・放射線技術・臨床工学・理学療法・視機能検査の5分野と大学院博士課程を有し、タイで上位に入る研究活動を行っている機関です。シンポジウムでは本学保健学教育部から3名、ナレスアン大学保健医療学部7名の合計10名による研究発表が行われました。

また、前日にはナレスアン大学保健医療学部長と部局間交流の発展について協議を行いました。今後、学生交流及び研究交流を推進することが期待されます。

(出典：保健学科 Web サイト)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 医学科では、教育の関し正課及び正課外活動を通して、また、教員も基礎演習や特別臨床実習を通して、着実に国際化・国際交流を図っている。

(保健学科) 学生は正課・正課外活動を通して、また、教員も国際学会への参加や海外との共同研究を通して、着実に国際化・国際交流を図っている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して活動の成果があがっているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 教育において、国際化に向けての教育は確実に実施しており、語学研修や病院見学・実習等での海外へ渡航する学生が増え、国際化に対する意識は向上してきている。また、海外の大学との部局間交流協定も着実に増加し、共同研究も着実に実施され、成果が上がってきている。(資料 D-1-3-1)

(資料 D-1-3-1)

・部局間交流協定校

締結年	国名	大学名	備考
平成 28年度	タイ	メーファールアン大学 医学部	学術、学生

(出典：熊本大学データ集)

(保健学科) 国際化に向けての教育は確実に実施されていることで、語学研修等で海外へ渡航する学生が増え、国際化に対する意識も確実に向上してきている。また、海外の大学との部局間交流協定も数を増し、国際共同研究の成果も上がってきている。(前掲資料 D-1-2-3) (前掲資料 D-1-2-5) (中期計画番号 40)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 学生の語学研修や病院見学や病院実習等での海外への渡航が着実に増え、国際化への意識が向上していること、国際共同研究も継続的に実施されており、国際化の成果は上がっている。

(保健学科) 学生の語学研修等を目的とした海外渡航は着実に増えており、国際化への意識も向上していること、教員も国際共同研究も継続的に実施していることから、国際化に向けた取り組みの成果は、十分上がっているものと考えている。

観点 改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 学生が卒業後に海外(特に米国)の病院で診療を行う際に必要となる資格について、米国 ECFMG が 2023 年以降、医学教育の国際認証を受けている大学の卒業生以外には受験資格を認めないとの宣言を受けて、日本国内で制定された医学教育分野別評価基準日本版が制定された。それに伴い、平成 25 年度より継続して評価基準に沿った新しいカリキュラムを策定し、現在第 5 学年である平成 26 年度入学生より新カリキュラムにそった教育を実施している。平成 31 年 6 月に認証評価の現地調査を受審する予定であり、それに向けての対応を継続的に行っている。認証されれば、海外における卒後の診療資格取得に当大学卒業生も認められることとなる。

評価認証に向けて、FD ワークショップにおいて継続的な対応を実施している。(資料 D-1-4-1)

(資料 D-1-4-1)

・FD ワークショップテーマ一覧

年度	テーマ
平成 26 年度	昨年作成した教育成果を踏まえ(1) 学生が教育成果を獲得するためにはどのような教育方略を実施すべきか、(2) 教育成果を獲得したかどうかをどのように評価するか、の検討
平成 27 年度	熊本大学の診療参加型臨床実習をデザインする
平成 28 年度	熊本大学の診療参加型臨床実習を充実させるために
平成 29 年度	医学教育分野別評価受審に向けて

(FD ワークショップ配付資料より)

(保健学科) 保健学科では、国際化推進委員会、保健学系運営委員会、教務委員会、国際化推進委員会において、海外大学との交流協定や国際化に関する教育・研究について継続的に検証、検討を行っている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 医科では、医学教育の国際認証への対応に向けて、カリキュラム委員会及び教育・教務委員会等で検討するとともに、医学部 FD ワークショップにおいても、これをテーマとして取り組んでおり、それぞれの委員会等が機能し、検証・検討している。

(保健学科) 国際化推進委員会、保健学系運営委員会、教務委員会、国際化推進委員会において、海外大学との交流協定や国際化に関する教育・研究について継続的に検証、検討を行っている。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

改善、向上している。

(医学科) 国際交流に関する教職員、学生の意識は、正課・正課外や研究において確実に向上してきている。部局間交流協定校も着実に増えている。学生の海外渡航については、語学研修や病院見学・病院実習等のため渡航する学生が増えており、学生の国際化に向けての意識が向上している。学生の卒業後の海外での医療活動を円滑にするための準備も整いつつある。また、研究面においても国際共同研究が継続的に実施され、その研究成果も現れてきている。

(保健学科) 国際交流に関する教職員並びに学生の意識は、正課・正課外活動や研究を通して確実に向上してきており、部局間交流協定校も着実に増えている。語学研修等を目的とした学生の海外渡航が増え、学生の国際化に向けての意識も向上している。また、研究面においても、各教員の努力により国際共同研究が継続的に実施されており、その成果も上がってきている。

VI 管理運営に関する自己評価書

1. 管理運営の目的と特徴

(医学科) 医学科では管理運営組織として医学科会議が組織され、その下に各種委員会が設けられ、特に教学に関する管理運営を行っている。

また、事務部門については医学事務チームを置き、管理運営、教育研究の支援を行うとともに、委員会等にも参加し、医学科の管理運営にも参画している。

(保健学科) 教学及び管理運営に関する重要事項を審議・決定する場として保健学科会議が組織され、その下に各種委員会が設けられ、特に教学に関する管理運営を行っている。

事務部門については、保健学事務チームを置き、管理運営、教育研究の支援を担わせるとともに、事務職員がオブザーバーとして各種委員会に参加している。

[想定する関係者とその期待]

(医学科) 医学科を担当する教職員、医学科に在籍する学生、卒業生、医学部附属病院の教職員、実習受け入れ学外施設、臨床実習を通して関わった患者およびその家族、卒業後の臨床研修施設、就職先、地域社会など。医師及び医学者としてふさわしい知識と技能、倫理観を備えた人材を育成する。

(保健学科) 想定される関係者としては、本学科に所属する教職員や学生とその保護者、本学科の卒業生、非常勤講師や医学部附属病院を含む教育関連施設の各種医療職従事者、地域の住民や各種医療従事者が挙げられる。これら関係者の協力、共同作業のもと、医療従事者、医学研究者としてふさわしい知識や技術、倫理観を備えた人材を育成していく。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

(医学科) 医学科では、管理運営組織として医学科会議が設けられており、議長を担う医学科長のリーダーシップのもとに、医学科の目的である使命達成のための意志決定がなされ、迅速かつ円滑に運営が行われている。また、これらを支援する事務組織として生命科学系事務課医学事務チームが置かれ、その管理運営及び活動も円滑に行われており、優れている点として評価できる。

(保健学科) 管理運営組織として保健学科会議が設けられ、保健学科長のリーダーシップのもとに、その目的達成のための意志決定が行われており、迅速かつ円滑に運営が行われている。また、支援組織として保健学事務チームが置かれ、管理運営の一助となっている。

【改善を要する点】

(医学科) 医学教育を行うための複雑な組織及びカリキュラムを、少ない人数で管理運営が行われている。ただ、部局等の目的を達成するのに必要な事務組織体系ではなく、また十分な職員が配置されているとは言えない。

(保健学科) 教員組織、事務組織ともに、少人数での管理運営を余儀なくされており、十分な職員が配置されているとは言えない。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

医学科の教育を担当する教員等で構成する医学科会議・各種委員会、保健学科の教育を担当する教員で構成する保健学科会議・各種委員会において、各学科の目的達成、管理運営上の特に教学に関する重要事項等を審議している。さらに、各学科会議で審議された事項の最終決定の会議として医学部運営会議が設置されている。(資料 Z-1-1-1) (資料 Z-1-1-2) (資料 Z-1-1-3)

事務組織については、生命科学系事務課長の下、医学科においては、医学事務チームの総務・人事(計7名)、経理(計7名)、研究支援(計6名)、安全衛生(計2名)、医学系教務(12名)、事務支援センター(計3名)が配置され、保健学科においては、保健学事務チームの副課長1人、総務担当(5人)及び教務担当(5人)が配置され、医学部運営会議及び各学科会議等の事務支援を行っている。(資料 Z-1-1-4)

危機管理体制については、本学が定める「熊本大学危機管理規則」及び各種危機管理マニュアル等に従い対応しており、本学部においても学部長、各学科長のスケジュールを担当事務でも共有するとともに、緊急時の連絡網を整備している。また、火災時の消防組織を編成しており、緊急時の対応を整備している。(資料 Z-1-1-5) (資料 Z-1-1-6) (資料 Z-1-1-7) (資料 Z-1-1-8)

その他、研究不正防止における「研究活動の不正行為の防止対策等に関する規則」、ヘルシンキ宣言等の趣旨に沿った倫理的配慮を図るための「生命倫理に関する規則」の遵守徹底を図り運用している。

また、本荘・大江事業場に設置された安全衛生委員会による職場巡視による指摘事項の改善など、安全管理の徹底を図っている。

(資料 Z-1-1-1)

・医学部運営会議要項(抜粋)

(構成)

第2条 運営会議は、熊本大学医学部教授会(以下「教授会」という。)の構成員(生命科学研究部の併任教授を除く。)のうち、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 医学部長
- (2) 医学部副学部長
- (3) 医学科長
- (4) 保健学科長
- (5) 医学科の教授 3人
- (6) 保健学科各専攻の教授 各1人

2 前項各号に掲げる者のほか、医学部長が必要と認めた教授会構成員を運営会議に加えることができる。

3 第1項第5号及び第6号の構成員は、教授会において当該年度内に定年により退職する教授以外の者から選出する。

4 第1項第5号及び第6号並びに第2項の構成員の任期は、医学部長の任期の終期を超えない。

5 第1項第5号及び第6号の構成員に欠員が生じた場合は、速やかに補充するものとする。

(審議事項)

第3条 運営会議は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 将来構想に関すること。
- (2) 医学部の規則等に関すること。
- (3) 医学部の予算・決算に関すること。

- (4) 入学試験に関する事。
- (5) 学生の除籍及び懲戒に関する事項
- (6) 教授会から付託された事項
- (7) その他医学部の運営に関する事。

(出典：医学部運営会議要項)

(資料 Z-1-1-2)

・熊本大学医学部医学科会議要項（抜粋）

(構成)

第2条 医学科会議は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 生命科学研究部の専任の教授で医学科の教育を担当するもの
- (2) 生命科学研究部の併任教授で医学科の教育を担当するもの
- (3) 医学部附属病院の専任の教授
- (4) 保健センターの専任の教授
- (5) 医学部附属病院長
- (6) 生命科学研究部及び医学部附属病院の専任の准教授及び講師で医学科の教育を担当する者のうちから選出されたもの4人以内
- (7) 教授に欠員を生じた生命科学研究部の研究分野(医学系に限る。)及び臨床医学教育研究センター(併任教授が配置されているものを除く。以下「研究分野等」という。)の専任の准教授又は講師 当該欠員を生じた研究分野等ごとに各1人

2 前項第6号に掲げる者の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠の構成員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 第1項第7号に掲げる者の任期は、当該欠員が補充されるまでの間とする。

(審議事項等)

第3条 医学科会議は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 医学科長候補者の選出に関する事。
- (2) 医学科における教育課程編成の原案に関する事。
- (3) 医学科の教育に関する事。
- (4) 教授会から付託された事項
- (5) その他医学科の運営に関する事。

(出典：熊本大学医学部医学科会議要項)

(資料 Z-1-1-3)

・保健学科会議要項（抜粋）

第1条 この要項は、熊本大学医学部教授会規則(平成16年4月1日制定)第8条第3項の規定に基づき、保健学科会議に関し必要な事項を定める。

(構成)

第2条 保健学科会議は、保健学科の専任の教授、准教授、講師及び助教をもって構成する。

(審議事項等)

第3条 保健学科会議は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 保健学科における教育課程編成の原案に関する事。
- (2) 保健学科の教育に関する事。
- (3) 教授会から付託された事項
- (4) その他保健学科の運営に関する事。

(出典：保健学科会議要項)

(資料 Z-1-1-4)

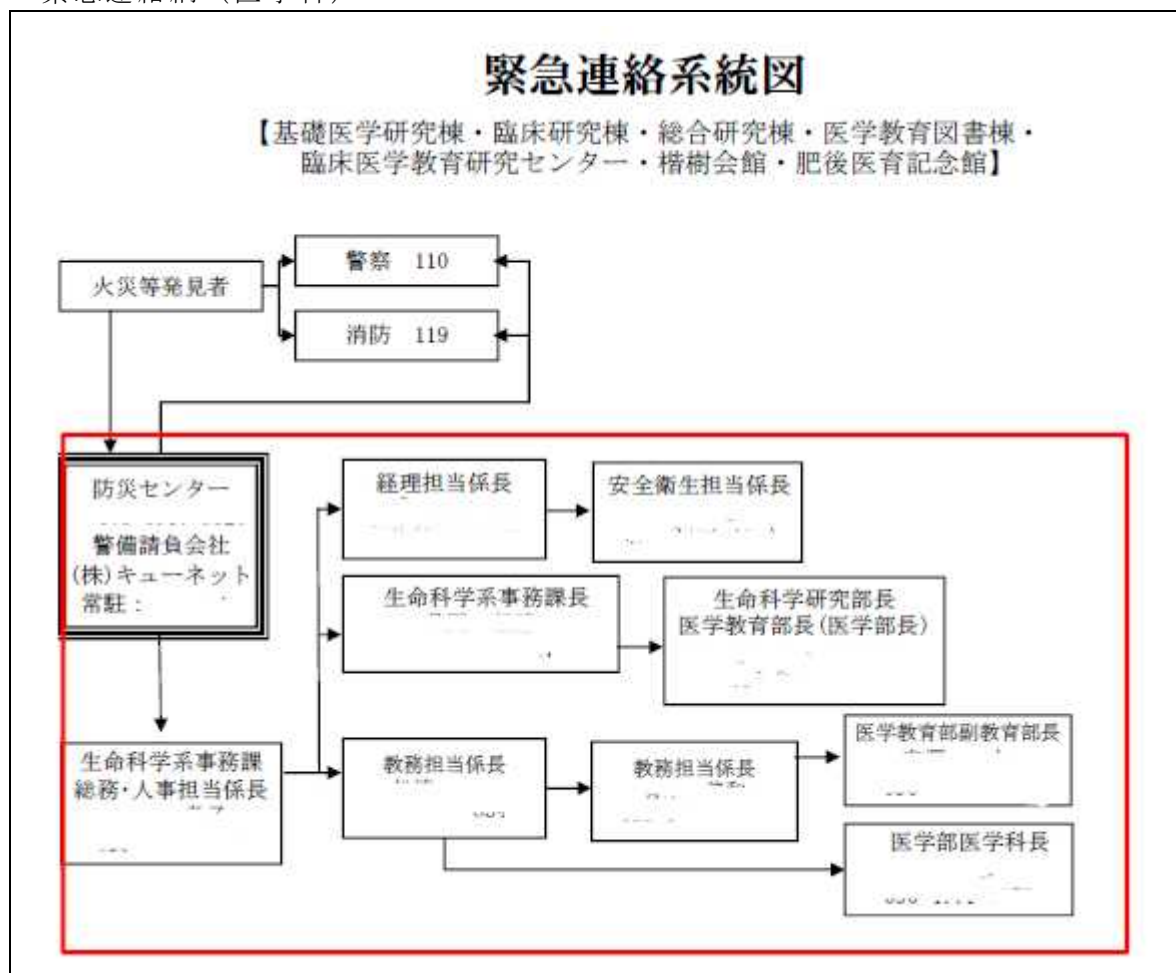
・事務組織図（該当部分のみ）



（出典：熊本大学事務組織移行図を基に作成）

（資料 Z-1-1-5）

・緊急連絡網（医学科）



（出典：緊急連絡系統図）

(資料 Z-1-1-6)

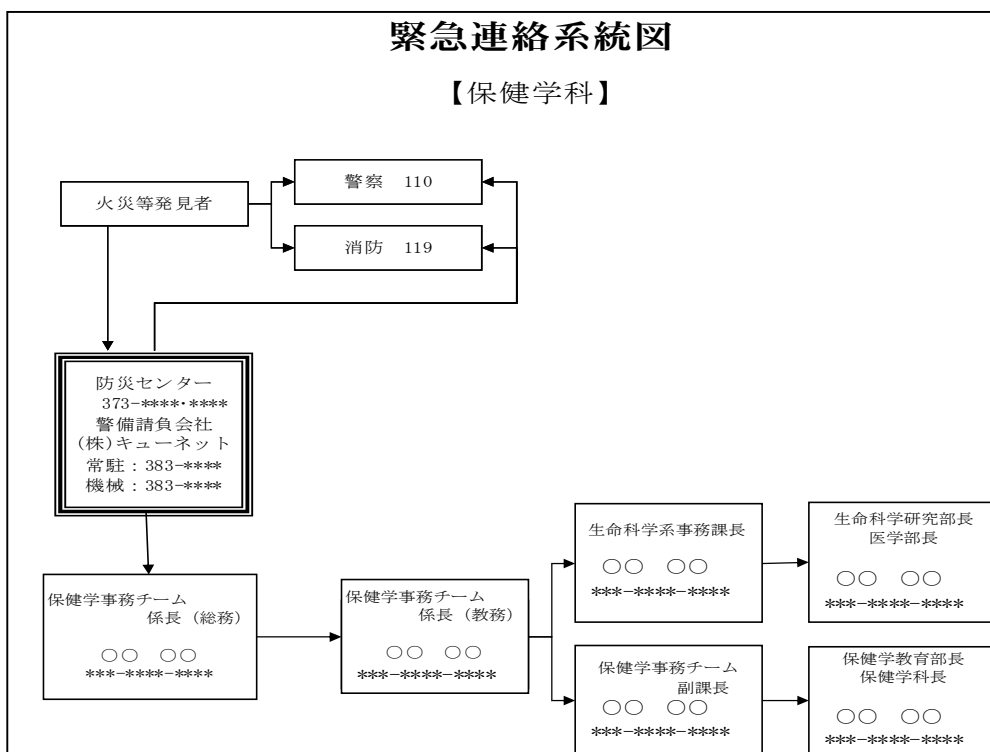
・ 自衛消防組織編成表 (医学科)

自衛消防組織の編成と任務		(平成30年4月1日現在)
(生命科学部(医学系)本部隊)		
統括管理者	※自衛消防隊編成員は、各分野より代理含め3名選出しておくこと	
附属病院事務部長	※自衛消防隊編成員は、各班長の指示に従い、自身の分野の教職員とともに速やかに行動すること	
本部隊長	※各班は、基礎医学研究棟、医学総合研究棟および医学教育図書棟の教職員にて編成する	
医学部長		
指揮・通報連絡班		
班長【経理担当係長】		
免疫識別学教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防隊本部の設置 ・ 消防団、各分団、ガス会社、電力会社等との連絡 ・ 記録の作成 ・ 災害見舞いの対応受付 ・ 訓練計画作成 ・ その他、他班に属さないこと 	
神経分化学教職員		
脳回路構造学教職員		
総研管理室教職員		
本荘RI教職員		
経理担当スタッフ		
初期消火班		
班長【安全衛生担当係長】		
微生物学教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場へ急行し、消火器・バケツ等を利用した初期消火作業 ・ 消火用水の運搬 ・ 隣接する延焼物の取り除き又は遮断等一切の消防作業 ・ ガスによる火災誘発の防止 ・ 電気関係の応急処置 (時間的余裕が無い場合は避難を優先すること) 	
細胞情報薬理学教職員		
生体機能薬理学教職員		
分子酵素化学教職員		
病態生化学教職員		
分子脳科学教職員		
エコチルユニットセンター教職員		
事務支援センタースタッフ		
救出救護班		
班長【研究支援担当係長】		
知覚生理学教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救出、救助、搬出 ・ 負傷者の応急処置その他応急処置 	
分子生理学教職員		
公衆衛生学教職員		
法医学教職員		
腫瘍医学教職員		
研究支援担当スタッフ		
避難誘導班		
班長【総務担当係長】		
形態構築学教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各建物の1階出入口(非常口含む)にて避難場所への誘導 ・ 救出・救助及び搬出の介助 ・ 負傷者の応急手当その他応急処置 	
生体微細構築学教職員		
生命倫理学教職員		
機能病理学教職員		
総務、人事担当スタッフ		
搬出班		
班長【教務担当係長】		
分子病理学教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消火用器具及び燃料、救護用器具類等の資材整備 ・ 重要物品の搬出及び保管 ・ 非常の場合の炊き出し及び供与 	
細胞病理学教職員		
分子遺伝学教職員		
免疫学教職員		
がん生物学教職員		
教務担当スタッフ		
臨床医学教職員教育研究センタースタッフ		

(出典：本荘北地区消防計画)

(資料 Z-1-1-7)

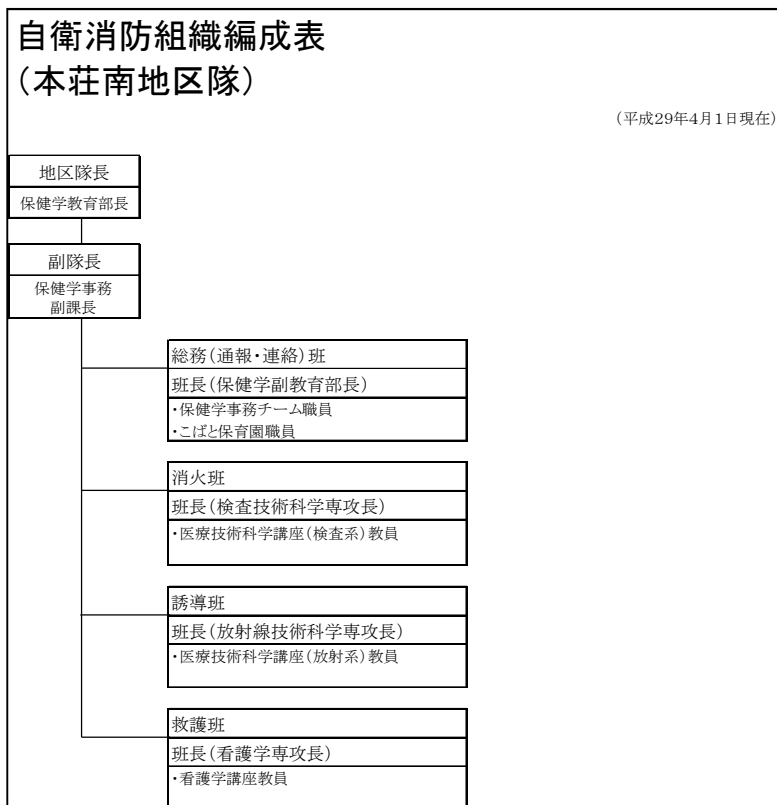
・緊急連絡網 (保健学科)



(出典：緊急連絡系統図)

(資料 Z-1-1-8)

・自衛消防組織編成表緊急連絡網 (保健学科)



(出典：本荘南地区消防計画)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 管理運営のための組織として、医学科会議、医学部運営会議が設置されており、適切な規模と機能を持っており、また、事務組織による支援体制及び、危機管理体制についても適切に整備されている。

(保健学科) 管理運営のための組織として、保健学科会議、医学部運営会議が設置されており、適切に機能している。また、事務組織による支援体制、あるいは危機管理体制についても適切に整備されている。

観点 構成員(教職員及び学生)、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

教職員、その他学外関係者からの管理運営に関する意見・要望等について、医学科では、各種委員会及び事務等で把握し、保健学科では、各専攻や事務で把握し、意見・要望等の内容によって、該当委員会や学科会議等で分析・検討を行い、検討結果を説明するとともに、適切な形で管理運営に反映させている。

学生からの意見・要望等に関しては、毎年実施される「学長と学生代表との懇談会」に先立ち、医学科では、医学部長、医学科長、教育・教務委員長、学生委員長及び臨床医学教育センター教員が出席する「医学部長と学生代表との懇談会」において、保健学科では、学生委員会、運営委員会において、分析・検討し、その結果は学生代表に説明するとともに、適切な形で管理運営に反映させている。(資料 Z-1-2-1)

(資料 Z-1-2-1)

・学生からの意見・要望等(平成26年度～平成29年度)

(医学科)

要望1: 学士試験、特に病理学 I、病理学 II、薬理学、CBT の試験日程を学生生活に配慮した日程に調整して欲しい。

対応1: CBT の日程を変更した。

要望2: 行事日程や講義、実習日程を早めに公表して欲しい。

対応2: 仮日程ではあるが、例年より早めに掲示した。

要望3: 各教室の利用状況・空き状況を掲示して欲しい。また講義中にその講義に支障がでるような問題が発生し教室を変更することで対処可能な場合は、速やかに別教室への変更手配をして欲しい。

対応3: 教室使用については、教職員用システムを利用して管理しているため、学生へタイムリーに周知することは困難であるが、別教室への手配については、柔軟に対応していく。

(保健学科)

要望1: 24時間使用可能な自習室を増やしてほしい。

対応1: 保健学科の自習室及び情報演習室は学生の安全を考慮し、22時まで利用できるようにしている。自習室を増やすことは難しい状況である。

要望2: 試験期間中は図書館をもう少し長く利用させてほしい。

対応2: 保健学系図書室については、定期試験期間中は1時間延長して20時まで開室している。

要望3: ワクチン接種の補助をしてもらいたい。(2回目以降)

対応 3：予算確保が難しいこと、及び 2 回目以降は個人毎に必要な接種数が異なるため、平等性が保てないことから、対応出来ない。1 回目については後援会・恵和会等から補助している。

要望 4：保健学科キャンパス内に ATM を設置してもらいたい。

対応 4：要望が多いようであれば今後検討していきたい。

(出典：「医学部長と学生代表との懇談会」記録、学生からの意見・要望書より抽出)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 教職員からの意見・要望等については、医学科会議や関係委員会等において随時収集・検討されている。また、学生については、意見・要望の収集から検討・反映に至るまでの体制が明確である。

(保健学科) 保健学科教職員・学生、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズは、各専攻、委員会及び事務で把握しており、該当委員会や運営委員会等で適切な形で管理運営に反映している。

(保健学科) 教職員からの意見・要望等については、保健学科会議や関係委員会等において随時収集・検討されている。また、学生からの意見、要望についても、収集から検討、反映に至るまでの体制は明確にされている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取り組みが組織的に行われているか。

(観点到係る状況)

管理運営に関わる教職員の研修は、大学で開催される各種講習会及び研修会等のほか、学外の各種機関・団体等が実施するものにも参加させ、資質向上を図っている。また、事務職員においても大学が開催する研修等に積極的に参加している。(資料 Z-1-3-1)

(資料 Z-1-3-1)

・事務職員の研修受講一覧

年度	受講人数	主な研修
平成 26 年度	85	・九州地区国立大学法人係長研修 ・九州地区国立大学医学部教務・学生系研修
平成 27 年度	66	・九州地区国立大学法人等テーマ別研修 ・業務遂行能力向上研修
平成 28 年度	23	・熊本大学共通スキル育成研修 ・職群固有スキル研修
平成 29 年度	48	・熊本大学会計実務研修 ほか

(出典：生命科学研究部事務データを基に作成)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

管理運営に関わる職員については、大学主催の研修会や説明会などに積極的に参加している。また、他大学主催で行われる医学部教務事務に特化した研修にも、毎年参加している。以上のことから期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

観点 活動の総合的な状況について、根拠となる資料・データ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点に係る状況)

医学部単独での自己点検・評価は実施していない。熊本大学として行う自己点検・評価において1部局として実施している。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

医学部では、熊本大学が行う自己点検・評価については、各学科会議・医学部運営会議など対応可能な体制を整備している。以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

(観点に係る状況)

毎年5月下旬～7月に開催する医学科後援会理事会及び保健学科後援会理事会において、現状報告と併せ医学部への意見・要望等についての意見交換を行っている。理事会で出された意見・要望等については関係委員会等において改善に向けて検討している。(資料 Z-2-2-1)

(資料 Z-2-2-1)

・後援会で出された意見・要望

意見 昨年の豪雨時の休講連絡が遅かった。
 対応 暴風による休講措置は取り決めがあるが、大雨による休講措置の取り決めはなく、また、大雨については予測が難いため連絡が遅れた。今後は、可能な限り迅速な対応を行っていく。

意見 トイレの汚れがひどかったが、どうなったか。
 対応 清掃会社が変わり、清掃回数も増やしたので、現在は清潔を保っている。

意見 地震後の授業等への影響は解消したのか。
 対応 高額なMRI・CTを含め、国からの支援もあり、授業には支障がないように対応した。

(出典：後援会議事要録)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

外部者の意見・要望等を聞く機会を設け、出された意見・要望等に対しは、該当する委員会等で検討している。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 評価結果がフィードバックされ、改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

自己点検・評価および外部者の評価結果、意見等については、医学科・保健学科の該当する会議等において検討を行い、改善のための取り組みを行っている。(資料 Z-2-3-1)

(資料 Z-2-3-2)

(資料 Z-2-3-1)

・医学科各種委員会

委員会名	構成	審議事項
医学科会議	(1)生命科学研究部の専任の教授で医学科の教育を担当するもの (2)生命科学研究部の併任教授で医学科の教育を担当するもの (3)医学部附属病院の専任の教授 (4)保健センターの専任の教授 (5)医学部附属病院長 (6)生命科学研究部及び医学部附属病院の専任の准教授及び講師で医学科の教育を担当する者のうちから選出されたもの4人以内 (7)教授に欠員を生じた生命科学研究部の研究分野(医学系に限る。)及び臨床医学教育研究センター(併任教授が配置されているものを除く。以下「研究分野等」という。)の専任の准教授又は講師 当該欠員を生じた研究分野等ごとに各1人	(1) 医学科長候補者の選出に関する事。 (2) 医学科における教育課程編成の原案に関する事。 (3) 医学科の教育に関する事。 (4) 教授会から付託された事項 (5) その他医学科の運営に関する事。
医学科教育・教務委員会	(1)教授会で選出された基礎系教授 5人及び臨床系教授 5人 (2)准教授及び講師のうちから選出された4人 (3)助教のうちから選出された2人 (4)医学科学生委員長(学生委員長の任にある者が第1号により選出された場合を除く。) (5)臨床医学教育研究センターの専任の教授又は准教授 1人	委員会は、教育の方針及び教務に関し、審議を行い、その円滑な運営を図ることを目的として、次の事項について審議する。 (1)教育課程の編成及び授業に関する事。 (2)学生の修学指導に関する事。 (3)学生の入学、退学、転学、休学、復学、転部及び卒業に関する事。 (4)科目等履修生に関する事。 (5)その他教務に関する事。
カリキュラム委員会	(1)大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センター長 (2)医学部医学科教育・教務委員会委員長 (3)大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センターの専任の教授	委員会は、医学部医学科のカリキュラムに関する企画・検討を行い、その結果を医学科教育・教務委員会に諮るものとする。

	<p>又は准教授 1人 (4)医学部医学科の教育を担当する教授及び准教授のうちから医学部医学科教育・教務委員会が指名する者 4人</p>	
プログラム評価委員会	<p>(1)医学部医学科長 (2)医学部医学科教育・教務委員会委員の経験を有する基礎系及び臨床系の教授から選出された者 各1人 (3)医学部医学科の教育を担当する基礎系の准教授及び講師のうちから選出された者 1人 (4)教育医長のうちから選出された者 1人 (5)医学部附属病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の特任教授又は特任准教授 1人 (6)医学部附属病院総合臨床研修センター専任教員 1人 (7)医学教育に精通している医学部医学科以外の者 若干人 (8)医学部医学科学生代表 2人</p>	<p>委員会は、医学部医学科の教育プログラムに関する評価を行い、その結果を医学部医学科会議に報告する。</p>
医学科学生委員会	<p>1.生命科学部専任の教授で医学部の教育を担当する基礎系及び臨床系のうちから教授会で選出された者各2人 2.准教授及び講師のうちから選出された者 2人 3.臨床医学教育研究センターの専任の教授又は准教授 1人</p>	<p>委員会は、学生の厚生指導に関する問題について審議する。</p>
医学科入試委員会	<p>1.医学部長 2.医学科長 3.医学科教育・教務委員会委員長 4.臨床医学教育研究センターの専任の教授又は准教授1人 5.生命科学部専任の教授で医学科の教育を担当する者の中から医学部長が指名する者3人</p>	<p>委員会は、医学科の個別学力検査等に関する次に掲げる事項を審議する。 1.選抜方法及び学力検査実施教科・科目に関すること。 2.学生募集要項等に関すること。 3.入学試験の実施方針に関すること。 4.合格者の選考に関すること。 5.その他入学試験に関し委員長が必要と認めた事項</p>

(出典：医学科各種委員会一覧)

(資料 Z-2-3-2)

・保健学系各種委員会

委員会名	構成	審議事項
保健学系運営委員会	教育部長、副教育部長、各専攻長、教育部長が指名する者、課長	保健学教育部及び保健学科の管理運営に関する事項
保健学系教員人事管理委員会	教育部長、副教育部長、各専攻長、教育部長が指名する者	教員人事管理の具体的方策に関する事項、その他教員人事管理に関し必要な事項
入試委員会	教育部長、各専攻から教授 1 人 (連続 2 期再任不可)	選抜方法、学力検査実施教科・科目、学生募集要項、入試の実施方針、合格者の選考、その他入試に関する重要事項
大学院教育委員会	委員長、副教育部長、教務委員長、各専攻 1 人 (博士後期課程研究指導教授)	学事予定、教育課程の編成、授業、学生の修学指導、単位、課程の修了、留学生、教育評価、教育改善、教員資格審査及びその他教務に関する事項
教務委員会	委員長、各専攻 1 人 (講師以上)	学事予定、教育課程の編成、授業、学生の修学指導、単位、課程の修了、留学生、教育評価、教育改善及びその他教務に関する事項
学生委員会	委員長、各専攻 1 人 (講師以上)	学生の福利厚生及び厚生補導に関する事項
予算委員会	委員長、教育部長、各専攻 2 人	予算配当の立案及びその他予算に関する事項
施設・環境委員会	委員長、各専攻 2 人	学生の教育・研究施設及び環境保全、施設の維持管理・新設拡充、駐車・駐輪、LAN、安全管理・環境保全、全学等の安全衛生委員会からの各種調査、省エネ、廃棄物対策、その他施設または環境に関する事項
FD委員会	委員長、各専攻 1 人 (講師以上)	FD活動に関する事項
広報・図書委員会	委員長、各専攻 1 人	広報、紀要の発刊、図書室の運営に関する事項
目標・評価委員会	教育部長、副教育部長、各専攻長、大学院教育委員長、教務委員長、教育部長が指名する者	中期目標・中期計画、組織評価、自己点検評価、教員の個人活動評価方法、その他目標または評価に関する事項
国際化推進委員会	教育部長、副教育部長、各専攻長、各専攻から 1 人	国際 (学術・学生) 交流、国際共同研究・国際受託研究、その他国際化に関する事項

(出典:保健学系各種委員会名簿より作成)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

評価・意見に対して、それぞれの学科に検討する会議体を整備し、改善のための取り組みを行っている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

観点 目的(学士課程であれば学部、学科または課程ごと、大学院であれば研究科または専攻等ごとを含む。)が適切に公表されるとともに、構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 医学科の教育研究上の目的は、熊本大学及び医学科の Web サイト、学生便覧等に掲載し、構成員及び社会一般に広く公開・周知している。

(保健学科) 保健学科の教育・研究上の目的は、熊本大学及び保健学科の公式 Web サイト、学生便覧、並びに保健学科パンフレット等に掲載し、構成員及び社会一般に広く公開、周知している。(資料 Z-3-1-1) (資料 Z-3-1-2) (資料 Z-3-1-3)

(資料 Z-3-1-1)

・教育研究上の目的

医学科は、医学及び関連領域における社会的な使命を強い倫理観をもって達成するために必要な科学的で独創性に富む思考力と人間性とを涵養させつつ、医師として必要な基本的知識、技量を修得させ、生涯にわたって自己研鑽を積むことのできる人材を育成することを目的とします。

保健学科は、生命や人間の尊厳に基づく心豊かな教養及び高度な専門的知識・技術を備え、チーム医療のスタッフとして活動し、広く社会に貢献できる資質の高い医療者・研究者・教育者を育成することを目的とします。

(出典：熊本大学 Web サイト)

(資料 Z-3-1-2)

・教育目標(抜粋)

教育目標

【1】保健学科教育目標

- 1) 命の尊さを深く認識すると共に豊かな教養と人間性に裏打ちされた倫理観をもち人々の役にたつ医療人及び教育専門家を育成する。
- 2) 確かな専門知識と技術を基礎に、医療技術の進歩や情報化に相応して、チーム医療に対応できる医療人を育成する。
- 3) 高度な専門知識と自主的判断能力、主体的探求能力を備え、先端医療技術の開発に携わることのできる資質を備えた医療人及び教育専門家を育成する。
- 4) 社会、医療を取り巻く環境の変化に対応し、地域に根ざした健康の保持増進や生活の質の向上という社会的要請に対し、疾病の予防や環境問題に取り組むことのできる医療人を育成する。
- 5) 幅広い社会的視野を持ち、国際的保健医療活動または地域に密着した保健医療活動に貢献できる医療人を育成する。
- 6) 常に適正な問題意識を持ち、自ら問題を解決していく能力を有し、生涯にわたって学習・成長していくことのできる医療人及び教育専門家を育成する。(以下略)

(出典：保健学科学生便覧)

(資料 Z-3-1-3)

・保健学科パンフレット

熊本大学 医学部保健学科
Nursing
Radiological Science
Medical Laboratory Science

SCHOOL OF HEALTH SCIENCES
Kumamoto University

看護学専攻
看護部、保健師、助産師ならびに高等学校看護教諭の養成を目的とし、チーム医療・地域に密着した看護活動ができる人材を育成します。
●構成
基礎看護学分野(看護基礎学)/看護教育学分野(看護教育学)/臨床看護学分野(成人看護学、精神看護学)/母子看護学分野(母性看護学、助産学、小児看護学)/地域看護学分野(地域看護学、老年看護学)
●取得可能資格(学位、国家試験受験資格及び教員免許)
学士(看護学)/看護師/保健師*/助産師*/高等学校教諭一種免許状(看護学)
*県庁により一つを選択できます。ただし、人数に限りがあります。
●卒業後の進路
病院、保健所、保健福祉センター、介護老人保健施設、高等学校看護学科教諭、大学院進学(他大学を含む)等
●入学定員
70名、3年次編入学 10名

放射線技術科学専攻
放射線等を利用して診断に必要な医療画像を提供するだけでなく、将来の研究者や教育者となる診療放射線技師を育成します。
●構成
医用理工学分野(医用基礎科学、医用情報システム工学)
医用画像学分野(画像機器工学、診断画像学、放射線制御学)
●取得可能資格(学位、国家試験受験資格)
学士(保健学)/診療放射線技師
●卒業後の進路
病院、検診センター、放射線機器関連企業、大学院進学(他大学を含む)等
●入学定員
37名、3年次編入学 3名

検査技術科学専攻
診断・治療や健康状態の把握に必要な検査を行う臨床検査技師、ならびに将来の研究者や教育者となる医療人を育成します。
●構成
検査機器科学分野(細胞細胞学、生理機能検査学)/生体情報科学分野(血液免疫検査学、生体化学分析検査学、環境・病原検査学)
●取得可能資格(学位、国家試験受験資格)
学士(保健学)/臨床検査技師
●卒業後の進路
病院、検診センター、研究所、検査機器・試薬関連企業、大学院進学(他大学を含む)等
●入学定員
37名、3年次編入学 3名

(出典：保健学科パンフレット)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

目的がインターネットや冊子等を活用し適切に公表されるとともに、構成員に周知されている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されているか。

(観点到係る状況)

(医学科) 入学者受け入れ方針としてのアドミッションポリシー、教育課程の編成・実施方針としてのカリキュラムポリシー、学位授与方針としてのディプロマポリシー、及び、組織の目的である医学部医学科の使命と、卒業する際に獲得しているべき能力として教育成果(コア7項目と付属する50の小項目)を、医学部 Web サイト及び入試広報等により、学内外に向けて適切に広く公表・周知している。(前掲資料 A-1-1-1)

(保健学科) アドミッション・ポリシーは、本学 Web サイト、及び入試広報等により、学位授与方針は保健学科 Web サイトにより、学内外に向けて適切に広く公表、周知している。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

Web サイト、大学案内冊子、パンフレット、募集要項やオープンキャンパス等を活用し、広く学内外に公表・周知している。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第 172 条に規定される事項を含む。）が公表されているか。

(観点に係る状況)

医学部の教育研究に関する活動状況は、熊本大学・医学部 Web サイトに掲載し、学内外に広く公表している。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

熊本大学及び医学部 Web サイト等を活用し、広く学内外に公表・周知している。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

分析項目 VI 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

観点 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 講義室等は本荘北地区の医学教育図書棟に集約されており、1・2階に附属図書館医学系分館を備え、3階以上に講義室4室、実習室3室、ゼミ室2室、情報演習室1室が配置され、専門教育の講義・実習を行っている。

また、附属の臨床医学教育研究センターにはチュートリアル室15室があり、チュートリアル実習や臨床実習入門などの少人数学習を行っている。

バリアフリーの対策については、ほとんどの建物においてスロープやエレベーターが設置されている。

安全・防犯面については、全ての建物が機械警備を行っており、夜間・休日は部外者の入室はできないようになっている。さらに、講義室がある医学教育図書棟及びチュートリアル室がある臨床医学教育研究センターには、入口付近に防犯カメラを設置し、より防犯性を高めている。また、本荘地区内の警備については、警備会社との契約により、昼夜ともに定期的に警備員が巡回している。

(保健学科) 講義室8、セミナー室8、実験実習演習室37、研究室11、情報教育を中心に行うためのパソコン室2、自習室4、ならびに図書室1を備えている。自習室、パソコン室は、22時まで学生に開放しており、学生の自主学習時間を増やすことに一役買っている。

(資料 Z-4-1-1)

バリアフリー対策に関しては、C棟、E棟にそれぞれエレベーターが設置されている。

安全・防犯面については、建物の機械警備による夜間・休日の入館制限、防犯カメラの設置、警備員の構内巡回などを行っている。また、熊本地震をきっかけに、平成28年度末

に建物の耐震工事を行った。

(資料 Z-4-1-1)

・ 学生生活上の留意事項 (抜粋)

【17】 第 1、第 2 情報演習室の入退室システムについて
入室には、学生証をカードリーダーに通すと解錠します。通常 7:00～22:00 まで入室できます。

【18】 学生自習室の利用について
学生自習室の利用は、22 時までとします。学習のために設置されている部屋ですので、各自がそのことを自覚しマナーを守って利用してください。

(出典：保健学科学生便覧)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 教育研究活動に必要な施設・設備は計画的に整備され、有効に活用されている。臨床医学研究棟の建て替えも完了し、基礎及び臨床研究・教育の拠点としてふさわしい施設となっている。

(保健学科) 教育・研究に必要な施設、設備は、最低限整備されており、それらをフルに活用している。また、耐震化を含む安全・防犯面においても整備が進み、エレベーターの設置などバリアフリー対策も進んでいる。

観点 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 本荘地区には、全学的な教育・研究用のネットワークが構築されており、数多くの無線 LAN アクセスポイントも設置されている。また、情報演習室に総計 136 台の PC 及び 3 台のプリンターが配置され、授業内外で学生が利用できるようになっており、ICT 環境を有効に活用している。

(保健学科) 保健学科内に必要不可欠な数の無線 LAN アクセスポイントを設置し、学科内のインターネット環境を整備した。また、2 つの情報演習室 (A204、B201) を整備し、総計 82 台の学生用コンピュータを設置したことで、教育環境の充実につながった。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

有線 LAN 環境に加え、無線 LAN 環境が網羅されており、教職員・学生は、整備された環境の下で研究・教育に有効に活用されている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 附属図書館医学系分館は、延床面積 2,440 m²、閲覧座席数 226、和書 65,616 冊及び洋書 107,662 冊の蔵書である。視聴覚資料は 120 点、PC 36 台を備え、年間開館日数及び学内貸出冊数は資料のとおりである。(資料 Z-4-3-1) (資料 Z-4-3-2)

医学系分館は 2 名の専任職員及び 2 名の臨時職員で運営されている。また、館内には希望図書申込書が設置されており、学生が希望する図書を購入されるシステムになっており、利用者の要望に応じ、適切に対応出来る体制が整っている。

電子ジャーナルにおいては、全学的に契約がなされており、そのダウンロード数は 447,323 である。

(資料 Z-4-3-1)

・開館日数及び入館者数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
開館日数	365	344	305	341
入館者数	102,226	109,894	97,728	104,081

(出典：大学データ集)

(資料 Z-4-3-2)

・館外貸出冊数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
貸出冊数	7,718	8,708	6,244	6,191

(出典：大学データ集)

(保健学科) 保健学科内にも図書室を設置しており、附属図書館・中央館及び医学系分館との連携により、保健学科の教職員、学生のニーズに対応したサービスを提供している。保健学図書室には主に保健学に関連した図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集・整理、配架されており、閲覧、貸し出しを行っている。(資料 Z-4-3-3) (資料 Z-4-3-4) (資料 Z-4-3-5) (資料 Z-4-3-6)

全学的に契約がなされている電子ジャーナルについても、研究・教育両面に有効活用している。

(資料 Z-4-3-3)

・開館日数及び入館者数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
開館日数	224	230	204	220
入館者数	16,013	15,769	12,519	13,049

(出典：大学データ集)

(資料 Z-4-3-4)

・館外貸出冊数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
貸出冊数	1,822	1,627	1,302	1,037

(出典：大学データ集)

(資料 Z-4-3-5)

・保健学図書室の利用について(抜粋)

(1) 開室時間	
開室時間	月曜日～金曜日 10時～19時 春季、夏季、冬季の休業中は17時まで 定期試験中(前・後期)は20時まで
休室日	土・日曜日及び、国民の祝日に関する法律に定める休日 年末年始(12月28日～1月4日) 夏季一斉休業日 その他の臨時休室日

(出典：保健学教育部学生便覧)

(資料 Z-4-3-6)

平成26年度～平成29年度 分類別貸出統計

区分	H26	H27	H28	H29
0 総記	2	1	0	1
1 哲学	6	8	1	1
2 歴史	1	0	0	0
3 社会科学	18	30	39	21
4 自然科学	1753	1554	1222	1000
5 技術	12	19	10	8
6 産業	1	0	4	0
7 芸術	2	4	1	1
8 言語	1	0	2	0
9 文学	26	11	23	5
計	1822	1627	1302	1037

※日本十進分類法(NDC)で分類

(出典：図書貸出記録より集計)

◎平成26年度～平成29年度 分類別貸出統計表(含手作業データ)

年度	H26				H27				H28				H29				総合計			
	区分	身分	学部生	院生	職員、その他	計	学部生	院生	職員、その他	計	学部生	院生	職員、その他	計	学部生	院生		職員、その他	計	
0 総記			2	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4
1 哲学			6	2	2	10	9	1	2	12	1	0	1	2	0	1	0	0	1	25
2 歴史			1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
3 社会科学			16	2	0	18	24	3	1	28	30	5	4	39	14	7	0	0	21	106
4 自然科学			1,640	120	41	1,801	1,471	73	64	1,590	1,085	88	77	1,250	730	210	92	1,032	5,673	
5 技術			12	0	0	12	15	0	5	20	6	0	4	10	8	0	0	0	8	50
6 産業			1	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	5
7 芸術			1	0	1	2	4	0	0	4	0	0	1	1	1	0	0	0	1	8
8 言語			1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	3
9 文学			26	0	0	26	11	0	0	11	21	2	0	23	5	0	0	0	5	65
計			1,706	124	44	1,874	1,535	77	72	1,666	1,149	95	87	1,331	758	219	92	1,069	5,940	

※日本十進分類法(NDC)で分類

(出典：図書貸出記録より集計)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 全学の図書整備の方針に従って、図書は職員により系統的に収集・管理されており、有効に活用されている。

(保健学科) 学科内に図書室が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されている。国家試験コーナーや DVD の整備、学内ネットワークにアクセスできる PC、専用プリンター、ICT 環境の整備により、学生・教員の利用しやすい環境が整っており、教職員・学生に有効に活用されている。

観点 自主学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 学生の自主学習を円滑に進めるために、授業時間以外の講義室及び PC ルームを開放するとともに、上位の学年には自習室を設けている。また、臨床医学教育研究センターのチュートリアル室 (15 室) を授業等で使用しない時間帯を利用して、6 年生のグループ学習室として運用している。

(保健学科) 保健学科では、自習室 (4 室) 及び情報演習室 (2 室) を整備するとともに、講義室・演習室を開放している。また、各自習室には無線 LAN のアクセスポイントを設置し、インターネット環境も整備している。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 限られた施設及び環境の中で、学生の利便性等を最大に考え、有効な運用を行っており、期待される水準にあると考える。

(保健学科) 限られた施設及び環境の中で、学生の利便性等を最大に考え、有効に運用しており、期待される水準にあると考える。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目 I 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること。

質を維持している。

意志決定を行える会議体は適切に整備されており、それぞれにおいて審議事項も明確化されている。事務組織においても各学科に担当を配置するなど、適切な整備が行われ、管理運営にあたっている。また、事務職員は全学や学外で実施される講演会、セミナー及び研修等に積極的に参加しており、スキル向上に努めている。さらに、危機管理に関しては、全学規則等を周知・徹底し教職員の意識向上を図っている。

(2) 分析項目 II 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

質を維持している。

医学科では、医学教育分野における国際認証受審に向けて、活動の総合的な状況に関する自己点検・評価を細目に分けて担当チームを構成し実施している。保健学科単独では自己点検・評価は実施していないが、全学的な自己点検・評価において実施している。また、医学部運営会議、医学科会議及び保健学科会議などを主体として、継続的に改善するための体制は整備されている。また、後援会等から寄せられた意見・要望等については、該当する委員会において改善のための検討体制が整備され、効率的に機能している。

- (3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

改善・向上している。

熊本大学及び医学部の Web サイトや冊子等を活用し、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーをはじめ教育研究活動の情報が適切に公表されている。

- (4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

質を維持している。

(医学科) 講義室、実習室は医学教育図書棟に集約・整備され、有効に活用されている。附属図書館医学系分館、医学科教務事務室及び健康相談室(保健室)も同建物に配置され、学生及び教職員の利便性が図られている。

(保健学科) 講義室、演習室等は学生ファーストの視点で整備され、有効に活用されている。特に保健学科内の図書室は、学生の意見に基づいて整理を行ったことにより、専門書の貸出数も増えた。